

学校法人 北都健勝学園

新潟看護医療専門学校村上校

◎令和5年度入学生適用

令和5年度

講義概要

Syllabus

2023

3年間保存



基礎分野

| No. | 科目名 | 学年 | 開講時期 | 備考 | |
|-----|-------------|-----------|------|----|--|
| 1 | 科学的思考の基盤 | 情報科学Ⅰ | 1年生 | 通年 | |
| 2 | | 情報科学Ⅱ | 2年生 | 前期 | |
| 3 | | 教育学 | 2年生 | 前期 | |
| 4 | | 論理的思考法 | 1年生 | 前期 | |
| 5 | | 文章表現法 | 1年生 | 前期 | |
| 6 | 人間と生活・社会の理解 | 心理学 | 1年生 | 前期 | |
| 7 | | 社会学 | 2年生 | 後期 | |
| 8 | | カウンセリング理論 | 2年生 | 通年 | |
| 9 | | 人間関係学 | 1年生 | 後期 | |
| 10 | | 国際文化論 | 1年生 | 前期 | |
| 11 | | 健康とスポーツ | 1年生 | 前期 | |
| 12 | | 英語 | 3年生 | 通年 | |
| 13 | | 中国語 | 2年生 | 前期 | |
| 14 | | 地域の文化 | 1年生 | 前期 | |

| | | |
|--|---------------------------------|-------------|
| 【科目名】 情報科学 I | 【担当教員】 本間 啓介 | |
| 【区分】 基礎分野 | | |
| 【開講時期】 1年次 通年 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・情報の種類・取り扱いについて理解する ・パソコンの基礎操作ができ、簡単なプレゼンテーションができる ・看護に関する情報検索ができる | | |
| 【授業形態】 講義・演習 | | |
| 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【講義内容・講義項目】 | 【備考】 |
| 1 | コンピュータの仕組みと Windows の操作 | |
| 2 | Word2019／基本操作 | |
| 3 | Word2019／文書のレイアウト | |
| 4 | Word2019／オブジェクトとデザイン | |
| 5 | Word2019／表を作ろう | |
| 6 | Excel2019／基本操作・表のデザイン | |
| 7 | Excel2019／計算式と関数 | |
| 8 | Excel2019／グラフ | |
| 9 | PowerPoint2019／プレゼンの基本・デザイン | |
| 10 | PowerPoint2019／Excel から表とグラフの挿入 | |
| 11 | PowerPoint2019／アニメーション | |
| 12 | プレゼンの制作／表、グラフ、アニメ、写真、3分以内 | |
| 13 | プレゼンの制作／表、グラフ、アニメ、写真、3分以内 | |
| 14 | プレゼンの制作／表、グラフ、アニメ、写真、3分以内 | |
| 15 | プレゼンの制作／表、グラフ、アニメ、写真、3分以内 | |
| 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼン発表によって評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・例題 50＋演習問題 100 でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint 標準テキスト (Windows10/ Office2019 対応版) 【技術評論社】 ・USB メモリーを準備 | | |

| | | |
|--|---------------------|------------|
| 【科目名】 情報科学Ⅱ | 【担当教員】 安藤 とよ子 | |
| 【区分】 基礎分野 | | |
| 【開講時期】 2年次 前期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 15時間 |
| <p>【科目目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の定義と特徴について理解する ・コンピュータリテラシーと情報リテラシーを理解する ・情報倫理と法について理解する ・病院における医療情報システム・看護における情報システムを理解する <p>【授業形態】 講義・演習</p> <p>【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい</p> | | |
| 【回数】 | 【講義内容・講義項目】 | 【備考】 |
| 1 | 看護におけるデータ・情報の特徴等 | |
| 2 | コンピュータリテラシーと情報リテラシー | |
| 3 | 情報倫理と法 | |
| 4 | 医療情報システム | |
| 5 | 看護用語の標準化 | |
| 6 | 看護における情報システムの活用例 | |
| 7 | | |
| 8 | 科目終了試験および振り返り | |
| <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験と課題レポートで評価する | | |
| <p>【テキスト・教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エッセンシャル看護情報学【医歯薬出版株式会社】 | | |

| | | |
|---|--------------------------------|------------|
| 【科目名】 教育学 | 【担当教員】 渡辺 伸栄 | |
| 【区分】 基礎分野 | | |
| 【開講時期】 2年次 前期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の中で、教育活動がどのように営まれているかを理解する。 ・望ましい人間関係の在り方や人間の可能性を引き出す意義と方法を学び、看護における教育活動に応用できる基礎的な能力を養う。 ・人が学ぶことの本質を理解し、自己教育力を身に付ける。 【授業形態】 <ul style="list-style-type: none"> ・講義 | | |
| 【回数】 | 【講義内容・講義項目】 | 【備考】 |
| 1 | 社会の中の教育と看護 社会・文化・人間形成 機能化された社会 | |
| 2 | 教育とは何か 子どもの発見 教育の基盤としてのケア | |
| 3 | 教育の対象 発達という見方 権利主体としての子ども | |
| 4 | 社会変動と教育 大衆消費社会と情報化社会化 少子化動向 | |
| 5 | 教育の組織化 文化伝達としての学校方式 現代の学校の課題 | |
| 6 | 教授一人を教えるということ コミュニケーション 学ぶ・教える | |
| 7 | 訓育－かかわりを導く かかわり合うことの困難 生徒指導 | |
| 8 | 養護－教育の受け手を見守る 看護・ケア・教育 保健室の役割 | |
| 9 | 発達－教育を受けて成長する 発達を支え促す 高齢者の発達理論 | |
| 10 | 学びの場－家庭と学校 学校に行かない子ども 新たな課題 | |
| 11 | 教育の目標と評価 集団準拠評価と目標準拠評価 能力への注目 | |
| 12 | 教育の場の変動 教育要求の組織化 学校参加 教育の場の広がり | |
| 13 | 特別ニーズ教育－インクルーシブ教育 発達保障論と共生共学論 | |
| 14 | 生涯学習 成人の学習 アンドラゴジー 看護師の生涯学習 | |
| 15 | 科目試験（これまでの講義内容から筆記試験） | |
| 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験を実施し、評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・教育学（医学書院） ・受講ノートを用意すること | | |

| | | |
|---|---|------------|
| 【科目名】 論理的思考法 | 【担当教員】 難波 弘美 | |
| 【区分】 基礎分野 | | |
| 【開講時期】 1年次 前期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 15時間 |
| 【科目目標】 ・物事の筋道を理解して順序だてて考えることができる。 ・相手にわかりやすく説明できる。 | | |
| 【授業形態】 講義・演習 | | |
| 【事前・事後学習】 事前に与えられた課題について予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習しておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【講義内容・講義項目】 | 【備考】 |
| 1 | 論理的思考とは 論理的思考の必要性 | |
| 2 | 論理的思考の枠組み | |
| 3 | 事実を適切にとらえるとは 事実をとらえることの重要性、バイアスとは 事実をとらえるときの自己の課題 | |
| 4 | フレームワークの活用 もれなくダブリなく、だから何？・それはなぜ？ | |
| 5 | クリティカルシンキングとは | |
| 6 | 相手に伝わる話し方とは | |
| 7 | 【演習】相手に伝わる話し方の実践 | |
| 8 | 科目終了試験 | |
| 【評価方法】 ・科目修了試験を実施 ・筆記試験・課題によって評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 ・こどもロジカル思考 なぜ論理的に考えることが大切なのかわかる本 【カンゼン】 | | |

| 【科目名】 文章表現法 | 【担当教員】 相川 澄子 | |
|---|---|------------|
| 【区分】 基礎分野 | | |
| 【開講時期】 1年次 前期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 15時間 |
| <p>【科目目標】</p> <p>文章の書き方の基礎を理解する。 レポートの発表方法を理解する。</p> <p>【授業形態】 講義・演習</p> <p>【事前・事後学習】</p> <p>事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい</p> | | |
| 【回数】 | 【講義内容・講義項目】 | 【備考】 |
| 1 | 文章作成の基礎知識(1) レポートとは? レポートを書く意義 レポートの構成 | |
| 2 | 文章作成の基礎知識(2) 主語の明確化、1文は短く書く、文章の末尾は能動態で書く | |
| 3 | 文章作成の基礎知識(3) 5W2Hの活用 専門用語・外来語・略語の使い方 段落の活用 | |
| 4 | 文章作成の基礎知識(4) レポートの構成 引用文の記載方法 引用文献の記載方法 テーマの設定 | |
| 5 | レポートの作成 | |
| 6 | 発表方法について レポートの校正 | |
| 7 | レポートの発表 | |
| 8 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義・演習の振り返り | |
| <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 ・レポート、および科目終了試験により評価を行う | | |
| <p>【テキスト・教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護学生のためのレポートの書き方教室 【照林社】 ・USBメモリーを準備 | | |

| | | |
|--|------------------------------|-------------|
| 【科目名】 心理学 | 【担当教員】 大矢 真理 | |
| 【区分】 基礎分野 | | |
| 【開講時期】 1年次 前期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・人間の心理や行動の基礎にある原理を理解する ・学生が自己自身をよく理解する ・患者の心理をよく理解する ・患者の行動、知能、性格、情緒などをよく理解する 【授業形態】 講義 <ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、臨床心理士・公認心理師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 <p>事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい</p> | | |
| 【回数】 | 【講義内容・講義項目】 | 【備考】 |
| 1 | 看護における人間理解1：心理学とは何か？ほか | |
| 2 | 看護における人間理解2：科学としての心理学ほか | |
| 3 | 認知からの人間理解1：感覚・知覚ほか | |
| 4 | 認知面からの人間理解2：記憶ほか | |
| 5 | 行動からの人間理解1：欲求と動機づけほか | |
| 6 | 行動からの人間理解2：学習と行動 | |
| 7 | 発達からの人間理解1：発達段階と発達課題ほか | |
| 8 | 発達からの人間理解2：成人期から老年期 | |
| 9 | パーソナリティからの人間理解1：パーソナリティほか | |
| 10 | パーソナリティからの人間理解2：知能とは？ほか | |
| 11 | 人間関係からの人間理解1：対人認知と対人関係ほか | |
| 12 | 人間関係からの人間理解2：集団と組織 | |
| 13 | 心理臨床からの人間理解1：ストレスとストレスコーピング | |
| 14 | 心理臨床からの人間理解2：カウンセリング(心理療法)ほか | |
| 15 | 科目終了試験および振り返り | |
| 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験および講義参加態度（感想文、ミニレポート、グループワーク等含む）によって評価する。 【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・資料配布 | | |

| | | |
|--|-----------------------------------|------------|
| 【科目名】 社会学 | 【担当教員】 渡辺 伸栄 | |
| 【区分】 基礎分野 | | |
| 【開講時期】 2年次 後期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・社会学の基礎概念を理解する。 ・保健医療と社会とのかかわりについて理解する。 ・保健医療における家庭や地域社会の役割を理解する。 ・男女共同参画社会の形成について理解する。 【授業形態】 <ul style="list-style-type: none"> ・講義 | | |
| 【回数】 | 【講義内容・講義項目】 | 【備考】 |
| 1 | 社会学の基礎概念 行為、社会的行為 相互行為、社会関係 | |
| 2 | 社会学の基礎概念 集団、組織、ネットワーク 制度、全体社会 | |
| 3 | 社会学の基礎概念 社会変動とグローバリゼーション | |
| 4 | 保健医療と社会学 社会関係資本 公衆衛生と社会医学 | |
| 5 | 保健医療と社会学 病者の視点と社会的視点 社会システム | |
| 6 | 健康・病気・ストレスの新しい見方ととらえ方 | |
| 7 | ストレッサーとストレス、対処、そして健康・病気 社会格差 | |
| 8 | 健康・病気の社会格差の諸相 経済的状态 職業 教育 | |
| 9 | 社会格差による健康格差発生メカニズム 是正の取組と可能性 | |
| 10 | 「働き方」「働かせ方」と健康病気 わが国における変化 | |
| 11 | 「働き方」「働かせ方」による健康への影響 職場の要因 | |
| 12 | 仕事と生活の調和 ワーク-ライフ-バランス 支援的な職場環境づくり | |
| 13 | 性・ジェンダー・家族と保健医療 多様化する概念 ジェンダーと健康 | |
| 14 | 保健医療から見た結婚と家族 男女共同参画社会の形成 | |
| 15 | 科目試験（これまでの講義内容から筆記試験） | |
| 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験を実施し、評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・社会学（医学書院） ・受講ノートを用意すること | | |

| | | | |
|---|---------------------|--------|-------|
| 【科目名】 | カウンセリング理論 | 【担当教員】 | 大矢 真里 |
| 【区分】 | 基礎分野 | | |
| 【開講時期】 | 2年次 通年 | 【単位数】 | 1単位 |
| | | 【時間数】 | 30時間 |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・看護の現場での基本的なカウンセリングの基本的な技法を学ぶ ・カウンセリング理論や技法、心構えを理解する ・日常生活および医療現場でのコミュニケーションに、活かすことができる | | | |
| 【授業形態】 <ul style="list-style-type: none"> ・講義および演習 ・本科目は、医療機関、児童福祉施設、高等学校、大学において、臨床心理士、公認心理師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う | | | |
| 【事前・事後学習】 事前に指定の配布資料等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | | |
| 【回数】 | 【講義内容・講義項目】 | | 【備考】 |
| 1 | イントロダクション | | |
| 2 | カウンセリングとは | | |
| 3 | ことばと非言語によるコミュニケーション | | |
| 4 | 精神分析的心理療法 | | |
| 5 | 人間中心療法 1 | | |
| 6 | 人間中心療法 2 | | |
| 7 | 認知行動療法 | | |
| 8 | プレイセラピー | | |
| 9 | 芸術療法 | | |
| 10 | 呼吸法、リラクゼーション | | |
| 11 | その他の心理療法、カウンセリング技法 | | |
| 12 | カウンセリングの倫理 | | |
| 13 | 心理検査法 1 | | |
| 14 | 心理検査法 2 | | |
| 15 | 科目終了試験および振り返り | | |
| 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験および講義参加態度によって評価する | | | |
| 【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・資料配布 | | | |

| | | |
|--|------------------------------|-------------|
| 【科目名】 人間関係学 | 【担当教員】 横山 真歩 | |
| 【区分】 基礎分野 | | |
| 【開講時期】 1年次 後期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・人間生活と人間関係の基礎的知識を学ぶ ・人間関係を築く技法を学び目的に応じて相互関係を展開する能力を養う ・人間関係学を学び看護職に役立てる能力を養う | | |
| 【授業形態】 講義・演習 <ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、小学校・中学校、高等学校、特別支援学校、市役所保健行政にて臨床心理士、公認心理師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う | | |
| 【事前・事後学習】 事前指定の配布資料等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【講義内容・講義項目】 | 【備考】 |
| 1 | イントロダクション | |
| 2 | よりよい人間関係を築くために1：自分を知る | |
| 3 | よりよい人間関係を築くために2：さまざまな価値観を知る | |
| 4 | よりよい人間関係を築くために3：感情に気づく | |
| 5 | よりよい人間関係を築くために4：アサーショントレーニング | |
| 6 | 子どもの発達と人間関係 | |
| 7 | 家族における人間関係 | |
| 8 | 友情、恋愛における人間関係 | |
| 9 | 老年期における人間関係 | |
| 10 | 場面における人間関係：医療現場、福祉現場 | |
| 11 | 人間関係における問題1：不登校、いじめ | |
| 12 | 人間関係における問題2：虐待、ネグレクト | |
| 13 | 人間関係における病理：対人恐怖症、ひきこもり | |
| 14 | 関わりとしてのカウンセリング、心理療法 | |
| 15 | 科目終了試験および振り返り | |
| 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験および講義参加態度（感想文、ミニレポート、グループワーク等含む）によって評価する。 | | |
| 【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・資料配布 | | |

| 【科目名】 国際文化論 | 【担当教員】 藤由 暁男 | |
|---|---------------------------|------------|
| 【区分】 基礎分野 | | |
| 【開講時期】 1年次 前期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| <p>【科目目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業を通して世界を知る。民族や宗教の違いなどから、物事に対する探究心、諸外国の社会状況や多様な文化への理解を深める <p>【授業形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義とするが、予習復習は授業と同じ時間を充てることが望ましい ・本科目は大学において、国際理解や比較文化の教育に関する実務経験を有する教員が講義を行う <p>【事前・事後学習】</p> <p>事前に配布する資料や地図帳等を用いて予習し、講義終了後は配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい</p> | | |
| 【回数】 | 【講義内容・講義項目】 | 【備考】 |
| 1 | オリエンテーション：文化、文明とは何か | |
| 2 | 地図を読む／世界から見た日本 | |
| 3 | アルタミラ洞窟から世界へ | |
| 4 | 民族・宗教の成り立ちと国家のあり方 | |
| 5 | 世界遺産・文化遺産 | |
| 6 | 日本民族の成り立ち／「日本人」はどこから来たのか？ | |
| 7 | 日本と世界の住まい方 ①英国風カントリースタイル | |
| 8 | 〃 ②フランスのアパルトマン | |
| 9 | 〃 ③ニューヨークの魅力 | |
| 10 | 〃 ④水の都ヴェネチア | |
| 11 | 〃 ⑤アジアを席卷した香港 | |
| 12 | 〃 ⑥韓国の文化度調査 | |
| 13 | 身近にある領土問題 | |
| 14 | どこの国が好きですか、その国で生活できそうですか？ | |
| 15 | 科目終了試験、および、まとめ：旅を考える | |
| <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験で70%、授業中の発言や学習態度で30%で評価する。 | | |
| <p>【テキスト・教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界地図1冊（過去に使用したものでも可。または100円（ダイソー）の地図帖でも可。） ※各自で準備 ・毎回授業レジュメと資料コピーを配布 | | |

| | | |
|--|---|-------------|
| 【科目名】 健康とスポーツ | 【担当教員】 伊藤 渉 | |
| 【区分】 基礎分野 | | |
| 【開講時期】 1年次 前期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・身体を動かすことの意識を再確認し、健康・体力づくりのための知識や方法を習得する ・運動やスポーツ、レクリエーション活動の中から、技術・方法と併せて、コミュニケーションの楽しさ、生涯スポーツとしての楽しみ方、スポーツを通して支援のあり方等について習得する 【授業形態】 講義・実技 <ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、公益財団法人日本レクリエーション協会公認指導者資格「レクリエーション・コーディネーター」を持っている教員が講義・実技を行う。 【事前・事後学習】 <p>事前学習は無いが、講義・実技終了後は、講義資料を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい</p> | | |
| 【回数】 | 【講義内容・講義項目】 | 【備考】 |
| 1 | オリエンテーション（この科目の全体の流れ説明）、講義 レクリエーションとは何か。生涯学習とレク | 学内 |
| 2 | コミュニケーションワーク 講義 ホスピタリティとは レクリエーション事業の企画 講義 | 学内 |
| 3 | 歌を使ったレクリエーションゲーム1 実技 | リハ大体育館 |
| 4 | 歌を使ったレクリエーションゲーム2 実技 | リハ大体育館 |
| 5 | アイスブレイキング1 実技 レクリエーションゲームをとおして交流を深める レク指導の技術 | リハ大体育館 |
| 6 | アイスブレイキング2 実技 レクリエーションゲームをとおして交流を深める レク指導の技術 | リハ大体育館 |
| 7 | 福祉レク活動を考えるゲーム1 実技 | リハ大体育館 |
| 8 | 福祉レク活動を考えるゲーム2 実技 | リハ大体育館 |
| 9 | 学習クイズを使ったレクゲーム1 実技 | リハ大体育館 |
| 10 | 学習クイズを使ったレクゲーム2 実技 | リハ大体育館 |
| 11 | 協調性を高めるゲーム1 実技 | リハ大体育館 |
| 12 | 協調性を高めるゲーム2 | リハ大体育館 |
| 13 | 学生による指導実習1 実技とクリニック | リハ大体育館 |
| 14 | 学生による指導実習2 実技とクリニック | リハ大体育館 |
| 15 | まとめ 講義 現代社会の課題とレクリエーションの役割、試験 | 学内 |
| 【評価方法】 | | |
| ・出席状況・レポート及び指導実習、試験によって評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 | | |
| ・適宜プリント配布 | | |
| ※実技では運動できる服装・内履き、タオル、飲み物を準備してください。 | | |

| | | |
|---|-------------------------------|-------------|
| 【科目名】 英語 | 【担当教員】 非常勤講師 | |
| 【区分】 基礎分野 | | |
| 【開講時期】 3年次 通年 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・英語表現を駆使した医学英語を習得する ・英語の知識を習得し、実際の対応に役立てることができる 【授業形態】 <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・本科目は高等学校や大学において、英語教育に関する実務経験を有する教員が講義を行う 【事前・事後学習】 <p>事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい</p> | | |
| 【回数】 | 【講義内容・講義項目】 | 【備考】 |
| 1 | オリエンテーション・講義 | 講義 |
| 2 | ユニット 1:「あなたは外科診療で働いていますか」 | 講義 |
| 3 | ユニット 2:「今日はどうされましたか」 | 講義 |
| 4 | ユニット 3:「こちらはナースステーションです」 | 講義 |
| 5 | ユニット 4:「あなたは何か病気で苦しんでいますか」1回目 | 講義 |
| 6 | ユニット 4:「あなたは何か病気で苦しんでいますか」2回目 | 講義 |
| 7 | ユニット 5:「MRI を撮らなくてははいけません」 | 講義 |
| 8 | ユニット 6:「あなたは妊娠しています」 | 講義 |
| 9 | ユニット 7:「私の赤ちゃんは熱を出しています」 | 講義 |
| 10 | ユニット 8:「あなたの手術は明日の10時です」1回目 | 講義 |
| 11 | ユニット 8:「あなたの手術は明日の10時です」2回目 | 講義 |
| 12 | ユニット 9:「ご気分はいかがですか」 | 講義 |
| 13 | ユニット 10:「何か心配なことはありますか」 | 講義 |
| 14 | Quick Review | 講義 |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | |
| 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 ・出席状況・講義参加態度、ノート、筆記試験によって評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・クリスティーンのレベルアップ看護英会話【医学書院】 ・電子辞書・冊子体の辞書のみ使用可（スマートフォン利用不可） | | |

| | | |
|--|--------------------------|-------------|
| 【科目名】 中国語 | 【担当教員】 小池 郁代 | |
| 【区分】 基礎分野 | | |
| 【開講時期】 2年次 前期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 中国語の基礎発音、単語、文法を理解し、簡単な日常生活の会話を修得する ・ 中国語表現の意味や使い方を理解する 【授業形態】 講義 | | |
| 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【講義内容・講義項目】 | 【備考】 |
| 1 | ピンインの母音の発音、挨拶の会話 | |
| 2 | ピンインの母音の発音、声調、声調符号 | |
| 3 | 中国語の音節構造、音の仕組み | |
| 4 | 自己紹介、家族親族の呼び方 | |
| 5 | 肯定と否定の表現 | |
| 6 | 数、日付、時刻及び曜日の表現 | |
| 7 | 変化、経験及び予定や計画の表現 | |
| 8 | 質問や疑問の表現、会話トレーニング | |
| 9 | 食事、料理と味に関する会話 | |
| 10 | 常用量詞について、買い物の会話 | |
| 11 | 願望や意識の表現 | |
| 12 | 病気と病院について、医療分野に関する用語 | |
| 13 | 因果関係の表現、会話のトレーニング | |
| 14 | 日本語の漢字と中国語の漢字の比較 | |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | |
| 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 科目終了試験を実施 ・ 筆記試験によって評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しい中国語教室【郁文堂】 ・ プリント配布 | | |

| | | |
|--|--|--------------------|
| 【科目名】 地域の文化 | 【担当教員】 安藤とよ子 鈴木志麻 小杉和也 | |
| 【区分】 基礎分野 | | |
| 【開講時期】 1年次 前期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 15時間 |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・人々の生活基盤となる村上市について理解する。 ・地域の人との触れ合い、体験を通し地域への親しみ・愛着を持つ。 ・村上市の魅力について述べるができる。 【授業形態】 <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・見学および体験 【事前・事後学習】 <p>事前に村上市の概要について調べ、講義に臨み、講義終了後は感じたことや考えたことをまとめておくことが望ましい。</p> | | |
| 【回数】 | 【講義内容・講義項目】 | 【備考】 |
| 1 | 村上市の概要 | 講師：小杉和也 |
| 2 | 村上市に関する事前学習（グループ学習） | 講師：安藤 とよ子 鈴木 志麻 |
| 3 | グループ学習班のテーマ毎に市内に出向き実際を見る （①岩船地区漁業、②祭り（岩船・村上）、③村上堆朱・ | |
| 4 | 村上茶、④城下町、⑤鮭、酒など | |
| 5 | グループ学習班毎のまとめ学習・発表準備 | |
| 6 | グループ学習の発表 | |
| 7 | 個人レポート発表会 | |
| 8 | | |
| 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習配点 20点 ・個人レポート発表「村上市の魅力について」：80点 | | |
| 【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・特になし | | |

専門基礎分野

| No. | 科目名 | | 学年 | 開講時期 | 備考 |
|-----|---------------|-------------|-----|------|----|
| 15 | 人体の構造と機能 | 解剖学Ⅰ | 1年生 | 前期 | |
| 16 | | 解剖学Ⅱ | 1年生 | 後期 | |
| 17 | | 生理学Ⅰ | 1年生 | 前期 | |
| 18 | | 生理学Ⅱ | 1年生 | 後期 | |
| 19 | | 生化学 | 1年生 | 前期 | |
| 20 | 疾病の成り立ちと回復の促進 | 病理学 | 1年生 | 後期 | |
| 21 | | 疾病学Ⅰ | 1年生 | 後期 | |
| 22 | | 疾病学Ⅱ | 1年生 | 後期 | |
| 23 | | 疾病学Ⅲ | 2年生 | 前期 | |
| 24 | | 疾病学Ⅳ | 1年生 | 後期 | |
| 25 | | 疾病学Ⅴ | 1年生 | 後期 | |
| 26 | | 病原微生物学 | 1年生 | 後期 | |
| 27 | | 臨床栄養学 | 1年生 | 前期 | |
| 28 | | 薬理学 | 2年生 | 前期 | |
| 29 | | 治療論 | 2年生 | 前期 | |
| 30 | | リハビリテーション概論 | 2年生 | 前期 | |
| 31 | 健康支援と社会保障制度 | 社会福祉学 | 2年生 | 前期 | |
| 32 | | 公衆衛生学 | 1年生 | 前期 | |
| 33 | | 関係法規 | 3年生 | 後期 | |
| 34 | | 医療概論 | 1年生 | 前期 | |
| 35 | | 東洋医療 | 2年生 | 前期 | |
| 36 | | 生命倫理 | 3年生 | 前期 | |

| | | |
|--|---------------------------------|-------------|
| 【科目名】 解剖学 I | 【担当教員】 西野 幾子 | |
| 【区分】 専門基礎分野 | | |
| 【開講時期】 1年次 前期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・生命現象の基本である、呼吸・循環の働きを理解する ・体温の調整機能に関係づけ理解する ・人体の構造に関する基礎的知識を習得する | | |
| 【授業形態】 <ul style="list-style-type: none"> ・講義、GW (Group Working) ・本科目は大学等において、解剖教育に関する実務経験を有する教員が講義を行う | | |
| 【事前・事後学習】 事前に教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【講義内容・講義項目】 | 【備考】 |
| 1 | 人体の基本構造 (1) 人体の構成 (2) 細胞 | 講義 |
| 2 | 人体の基本構造 (3) 組織 (4) 人体を表す基本用語 | 講義 |
| 3 | 人体の基本構造 (5) 内臓の概要と基本構造 | 講義 |
| 4 | 消化器系 (1) 口腔から肛門まで | 講義 |
| 5 | 消化器系 (2) 肝臓・胆嚢・膵臓 (3) 腹膜 | 講義 |
| 6 | 呼吸器系 (1) 気道 (2) 肺と胸膜 | 講義 |
| 7 | 循環器系 (1) 循環器の構成 (2) 循環 (3) 心臓 | 講義 |
| 8 | 循環器系 (4) 血管の構造 (5) 動脈系 | 講義 |
| 9 | 循環器系 (6) 静脈系 (7) 胎児循環 (8) リンパ管系 | 講義 |
| 10 | 泌尿器系 腎臓、尿管、膀胱、尿道 | 講義 |
| 11 | 内分泌系 下垂体、甲状腺、副腎 | 講義 |
| 12 | 生殖器系 (1) 男性生殖器 | 講義 |
| 13 | 生殖器系 (2) 女性生殖器 | 講義 |
| 14 | 人体構造の検討 | GW、演習 |
| 15 | 科目終了試験 | |
| 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施する。 ・試験と講義中に行う問題演習などを総合して評価する。 | | |
| 【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 (1) 解剖生理学【医学書院】 | | |

| | | |
|--|---|------------|
| 【科目名】 解剖学Ⅱ | 【担当教員】 松村 博雄 | |
| 【区分】 専門基礎分野 | | |
| 【開講時期】 1年次 後期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・人体の構造に関する基礎的知識を習得する ・骨と関節、骨格筋の形態を理解する 【授業形態】 講義 <ul style="list-style-type: none"> ・本科目は大学の医学部において、解剖学の研究・教育の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 <p>事前に教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい</p> | | |
| 【回数】 | 【講義内容・講義項目】 | 【備考】 |
| 1 | 神経系の概要、中枢神経系 (1) 脊髄 | |
| 2 | 中枢神経系 (2) 脳幹① | |
| 3 | 脳幹②、末梢神経系 脳神経① | |
| 4 | 末梢神経系 脳神経②、自律神経 | |
| 5 | 中枢神経系 (3) 小脳 | |
| 6 | 中枢神経系 (4) 間脳 | |
| 7 | 中枢神経系 (5) 大脳① | |
| 8 | 大脳② 中枢神経系 (6) 脳室と髄膜・脳脊髄液 | |
| 9 | 中枢神経系 (7) 伝導路上行性（知覚性）と下行性（運動性） 中枢神経系 (8) 中枢神経の脈管 | |
| 10 | 骨格系 (1) 骨の形態と構造、組織と組成、発生と成長 骨格系 (2) 関節 | |
| 11 | 骨格系 (3) 全身の骨格 筋系 (1) 骨格筋と脊髄神経 | |
| 12 | 筋系 (2) 体幹と上肢の骨格筋 | |
| 13 | 筋系 (3) 下肢と背部の骨格筋 | |
| 14 | 筋系 (4) 背部の骨格筋 感覚器系 : 皮膚の構造と機能 | |
| 15 | 科目終了試験、解剖学と臨床医学とのかかわり | |
| 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験およびレポートを実施する。 ・試験と複数回のレポートなどを総合して評価する。 | | |
| 【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 (1) 解剖生理学【医学書院】 | | |

| | | |
|---|--------------------------------|------------|
| 【科目名】 生理学 I | 【担当教員】 宮岡 洋三 | |
| 【区分】 専門基礎分野 | | |
| 【開講時期】 1年次 前期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| <p>【科目目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生体機能の中から運動、感覚、神経系など主に動物性機能について理解する <p>【授業形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義、グループワーク ・本科目は、大学において生理学の実務経験を有する教員が講義を行う <p>【事前・事後学習】</p> <p>事前に教科書を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくのが望ましい</p> | | |
| 【回数】 | 【講義内容・講義項目】 | 【備考】 |
| 1 | ガイダンス、細胞から人間まで-1（教科書の第1章、以下同様） | |
| 2 | 細胞から人間まで-2（第1章） | |
| 3 | 運動系-1（第2章） | |
| 4 | 運動系-2（第2章） | |
| 5 | 神経系-1（第3章） | |
| 6 | 神経系-2（第3章） | |
| 7 | 神経系-3（第3章） | |
| 8 | 感覚器系-1（第4章） | |
| 9 | 感覚器系-2（第4章） | |
| 10 | 感覚器系-3（第4章） | |
| 11 | 血液（第6章）、体液（第7章） | |
| 12 | 生体の防御機構（第8章） | |
| 13 | 体温調節と生体リズム（第13章） | |
| 14 | 動物性機能全般について（グループワーク） | |
| 15 | 科目終了試験および試験の解説 | |
| <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施する。なお、必要に応じて臨時の試験をおこなう場合がある。 ・筆記試験によって評価する。 | | |
| <p>【テキスト・教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体の構造と機能 第5版 内田さえ他編【医歯薬出版】 | | |

| 【科目名】 生理学Ⅱ | 【担当教員】 宮岡 洋三 | |
|---|----------------------------|------------|
| 【区分】 専門基礎分野 | | |
| 【開講時期】 1年次 後期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| <p>【科目目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生体機能の中から循環、呼吸、消化と吸収など主に植物性機能について理解する <p>【授業形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義、グループワーク ・本科目は、大学において生理学の実務経験を有する教員が講義を行う <p>【事前・事後学習】</p> <p>事前に教科書を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくのが望ましい</p> | | |
| 【回数】 | 【講義内容・講義項目】 | 【備考】 |
| 1 | 循環系-1 (第5章) | |
| 2 | 循環系-2 (第5章) | |
| 3 | 循環系-3 (第5章) | |
| 4 | 呼吸器系-1 (第9章) | |
| 5 | 呼吸器系-2 (第9章) | |
| 6 | 消化器系と代謝-1 (第10章) | |
| 7 | 消化器系と代謝-2 (第10章) | |
| 8 | 消化器系と代謝-3 (第10章) | |
| 9 | 消化器系と代謝-4 (第10章) | |
| 10 | 泌尿器系 (第11章) | |
| 11 | 内分泌系-1 (第12章) | |
| 12 | 内分泌系-2 (第12章) | |
| 13 | 内分泌系-3 (第12章)、生殖と老化 (第14章) | |
| 14 | 植物性機能全般について (グループワーク) | |
| 15 | 科目終了試験および試験の解説 | |
| <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施する。なお、必要に応じて臨時の試験をおこなう場合がある。 ・筆記試験 (90%) とグループワーク (10%) によって評価する。 | | |
| <p>【テキスト・教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体の構造と機能 第5版 内田さえ他編【医歯薬出版】 | | |

| | | |
|--|--------------------|------------|
| 【科目名】 生化学 | 【担当教員】 佐藤 律子 | |
| 【区分】 専門基礎分野 | | |
| 【開講時期】 1年次 前期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 15時間 |
| <p>【科目目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細胞と生体物質の構造・機能・代謝を理解する ・遺伝子発現のメカニズムを理解する <p>【授業形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義（オンライン授業） ・本科目は高等学校において、大学の教育に関する実務経験を有する教員が講義を行う <p>【事前・事後学習】</p> <p>事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい</p> | | |
| 【回数】 | 【講義内容・講義項目】 | 【備考】 |
| 1 | 細胞の構造と機能 | |
| 2 | 生体分子 糖質・脂質 | |
| 3 | 生体分子 タンパク質・核酸・ホルモン | |
| 4 | 代謝とその調節 酵素 | |
| 5 | 代謝とその調節 糖質・脂質代謝 | |
| 6 | 代謝とその調節 タンパク質・核酸代謝 | |
| 7 | 遺伝子の複製・転写・翻訳 | |
| 8 | 科目終了試験 | |
| <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する | | |
| <p>【テキスト・教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(2)生化学 【医学書院】 | | |

| | | |
|---|-----------------------------|-------------|
| 【科目名】 病理学 | 【担当教員】 佐藤 律子 | |
| 【区分】 専門基礎分野 | | |
| 【開講時期】 1年次 後期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| 【科目目標】 ・ 疾病の原因とその成り立ちについて理解する | | |
| 【授業形態】 ・ 講義（オンライン授業）、GW（Group Working） ・ 本科目は高等学校において、大学の教育に実務経験を有する教員が講義を行う | | |
| 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【講義内容・講義項目】 | 【備考】 |
| 1 | 看護と病理学、病気の原因（内因、外因）、医原病と公害病 | |
| 2 | 細胞・組織の損傷 | |
| 3 | 細胞・組織の修復 | |
| 4 | 炎症 | |
| 5 | 免疫と免疫不全 | |
| 6 | アレルギーと自己免疫疾患 移植と再生医療 | |
| 7 | 感染症 | |
| 8 | 代謝障害 | |
| 9 | 老化と死 | |
| 10 | 先天異常と遺伝子異常 | |
| 11 | 腫瘍の定義と分類、腫瘍の発生病理 | |
| 12 | 悪性腫瘍の転移と進行度、腫瘍の診断と治療 | |
| 13 | 生活習慣と環境因子による生体の障害 | 講義、GW |
| 14 | 症例発表、症例検討 | 講義、GW |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | |
| 【評価方法】 ・ 科目終了試験を実施 ・ 筆記試験によって評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 ・ 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進(1)病理学【医学書院】 ・ 配布資料 | | |

| | | |
|--|--------------------|-------------|
| 【科目名】 疾病学 I | 【担当教員】 佐久間 恵 | |
| 【区分】 専門基礎分野 | | |
| 【開講時期】 1年次 後期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 15時間 |
| 【科目目標】 ・内分泌、栄養代謝系に疾病を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎知識を習得し、治療の方法を理解する。 | | |
| 【授業形態】 ・講義 ・本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義を行う | | |
| 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【講義内容・講義項目】 | 【備考】 |
| 1 | 内分泌・代謝疾患（機能・構造等） | |
| 2 | 内分泌疾患（視床下部等） | |
| 3 | 内分泌疾患（甲状腺等） | |
| 4 | 内分泌疾患（副腎・その他） | |
| 5 | 代謝疾患（糖尿病） | |
| 6 | 代謝疾患（糖尿病の合併症） | |
| 7 | 脂質異常その他の代謝疾患 | |
| 8 | 科目終了試験 | |
| 【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する ・授業への参加態度・課題提出も評価の対象とする | | |
| 【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(6)内分泌・代謝 【医学書院】 | | |
| 【サブテキスト】 ・病気がみえる vol.3 【メディックメディア】 | | |

| | | |
|--|---|------------|
| 【科目名】 疾病学Ⅱ | 【担当教員】 林 達彦、田沼 順一 | |
| 【区分】 専門基礎分野 | | |
| 【開講時期】 1年次 後期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| 【科目目標】 ・消化器系、呼吸器系、循環器系、血液・造血系に疾病を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、治療の方法を理解する | | |
| 【授業形態】 講義 本科目は医師の資格を有し、看護師の教育に関する実務経験を有する教員が講義、演習を行う 本科目は看護大学および高等看護学校において、病理学等の教育に関する実務経験を有する教員が講義、演習を行う | | |
| 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【講義内容・講義項目】 | 【備考】 |
| 1 | 食道癌、胃・十二指腸潰瘍、胃癌 | 林 達彦 |
| 2 | 腸炎、潰瘍性大腸炎、クローン病、大腸癌、虫垂炎、虚血性大腸炎 | 林 達彦 |
| 3 | 肝と黄疸、肝炎（急性・劇症・慢性）、肝硬変、肝臓がん | 林 達彦 |
| 4 | 胆石症、胆のう炎、急性膵炎、慢性膵炎、膵臓がん | 林 達彦 |
| 5 | 貧血、再生不良性貧血、造血器腫瘍 | 田沼 順一 |
| 6 | 白血球の機能、白血病（急性 VS 慢性、骨髄性 VS リンパ球性） | 田沼 順一 |
| 7 | 血小板の機能、止血機能、内因子、外因子、血友病、DIC | 田沼 順一 |
| 8 | 気道の構造、かぜ症候群、気管支炎、肺炎 | 田沼 順一 |
| 9 | 肺結核 | 田沼 順一 |
| 10 | 肺機能検査、肺活量、1秒量、1秒率、COPD、間質性肺炎 | 田沼 順一 |
| 11 | じん肺、肺がん、呼吸器症状のまとめ | 田沼 順一 |
| 12 | 循環と血圧、調節因子、高血圧（本態性 VS 続発性） | 田沼 順一 |
| 13 | 狭心症、心筋梗塞、心不全、弁膜症、先天性心疾患、心筋症 | 田沼 順一 |
| 14 | 不整脈、心電図、房室ブロック、ペースメーカー、心房細動 心室細動、AED | 田沼 順一 |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | |
| 【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(2)呼吸器 【医学書院】 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(3)循環器 【医学書院】 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(4)血液・造血器 【医学書院】 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(5)消化器 【医学書院】 ・わかりやすい病理学（第7版）【南江堂】 | | |

| | | |
|--|--------------------------|------------|
| 【科目名】 疾病学Ⅲ | 【担当教員】 星野 浩通、中西進人 | |
| 【区分】 専門基礎分野 | | |
| 【開講時期】 2年次 前期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| 【科目目標】 ・脳神経・運動器系の疾病を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、治療の方法を理解する。 | | |
| 【授業形態】 講義、GW (Group Working) ・言語聴覚士及び医学博士を有し、臨床経験と当該領域の教育経験を有する教員が講義を行う ・理学療法士の実務経験を有する教員が講義を行う | | |
| 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや毎回の配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい。参考書についても、必要があれば紹介する | | |
| 【回数】 | 【講義内容・講義項目】 | 【備考】 |
| 1 | 脳・神経系 ① | 中西 進人 |
| 2 | 脳・神経系 ② | 中西 進人 |
| 3 | 失語症 | 中西 進人 |
| 4 | 認知症 ① | 中西 進人 |
| 5 | 認知症 ② | 中西 進人 |
| 6 | 高次脳機能障害 ① | 中西 進人 |
| 7 | 高次脳機能障害 ② | 中西 進人 |
| 8 | 末梢神経、中枢神経、神経疾患 (講義、GW) | 星野 浩通 |
| 9 | 神経疾患 (講義、GW) | 星野 浩通 |
| 10 | 脊髄損傷 (講義、GW) | 星野 浩通 |
| 11 | 脊椎疾患 (講義、GW) | 星野 浩通 |
| 12 | 骨折、脱臼 (講義、GW) | 星野 浩通 |
| 13 | 筋、腱、関節 (講義、GW) | 星野 浩通 |
| 14 | 理学療法、物理療法 (講義、GW) | 星野 浩通 |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | 星野 浩通 |
| 【評価方法】 ・科目終了試験を行う ・筆記試験によって評価する。 | | |
| 【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(7)脳・神経 【医学書院】 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(10)運動器 【医学書院】 | | |

| | | |
|---|-----------------------------|------------|
| 【科目名】 疾病学Ⅳ | 【担当教員】 藤巻 尚 | |
| 【区分】 専門基礎分野 | | |
| 【開講時期】 1年次 後期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 15時間 |
| <p>【科目目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性生殖器系に疾病を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し治療の方法を理解する <p>【授業形態】 講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本科目は医師の実務経験を有する教員が講義を行う <p>【事前・事後学習】</p> <p>事前に配布する資料および教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい</p> | | |
| 【回数】 | 【講義内容・講義項目】 | 【備考】 |
| 1 | ① 性生殖器の機能 ②症状と病態生理 ③診察法と検査法 | |
| 2 | ① 絨毛性疾患 ②卵巣・卵管・骨盤内疾患 | |
| 3 | ① 手術法・術後の合併症 ②化学、放射線、ホルモン療法 | |
| 4 | ① 性分化疾患・奇形 ②外陰・膣・子宮疾患 | |
| 5 | ① 子宮・卵巣の悪性疾患 | |
| 6 | ① 乳房疾患 ②月経異常・月経随伴症状 ③更年期障害 | |
| 7 | ① 不妊症・不育症 ②避妊 ③性感染症 | |
| 8 | 科目終了試験 | |
| <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する | | |
| <p>【テキスト・教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(9)女性生殖器 【医学書院】 | | |

| | | |
|---|--|-------------|
| 【科目名】 疾病学V | 【担当教員】 中川 沙織 | |
| 【区分】 専門基礎分野 | | |
| 【開講時期】 1年次 後期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 15時間 |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> 腎疾患を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し治療の方法を理解する アレルギー疾患、膠原病、感染症について基礎知識を習得し治療方法を理解する | | |
| 【授業形態】 <ul style="list-style-type: none"> 講義 本科目は大学薬学部や看護学校において、疾病に関する講義を担当してきた経験を有する教員が講義を行う | | |
| 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【講義内容・講義項目】 | 【備考】 |
| 1 | 生体防御、免疫、アレルギー反応（Ⅰ～Ⅳ）、気管支喘息 アナフィラキシー | |
| 2 | 膠原病、自己免疫性疾患、リウマチ、RA、SLE、全身性強皮症、DM、PM、リウマチ熱、シェーグレン症候群、ベーチェット病 | |
| 3 | 感染症、SIRS、インフルエンザ、AIDS | |
| 4 | 腎臓の機能、酸・塩基平衡、乏尿、無尿、多尿、血尿、蛋白尿、浮腫 | |
| 5 | 急性腎不全、慢性腎不全、ネフローゼ症候群、透析療法 | |
| 6 | 糸球体腎炎、腎硬化症、高血圧、糖尿病性腎症、ループス腎炎 | |
| 7 | 尿路感染症、腎盂腎炎、失禁、熱傷、褥瘡 | |
| 8 | 科目終了試験 | |
| 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> 科目終了試験を実施 筆記試験によって評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(8)腎・泌尿器【医学書院】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(11)アレルギー・膠原病・感染症【医学書院】 | | |

| | | |
|---|-----------------------|-------------|
| 【科目名】 病原微生物学 | 【担当教員】 佐藤 律子 | |
| 【区分】 専門基礎分野 | | |
| 【開講時期】 1年次 後期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・病原体の種類・特徴と疾患の関連性について理解する。 ・病原体の感染経路を把握し、感染予防の方法を理解する。 | | |
| 【授業形態】 <ul style="list-style-type: none"> ・講義（オンライン授業）、GW（Group Working） ・本科目は高等学校において、大学の教育に関する実務経験を有する教員が講義を行う | | |
| 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【講義内容・講義項目】 | 【備考】 |
| 1 | 微生物の概要 | |
| 2 | 細菌の性質 | |
| 3 | 真菌の性質 | |
| 4 | 原虫の性質 | |
| 5 | ウイルスの性質 | |
| 6 | 感染と感染症 | |
| 7 | 感染に対する生体防御機構 | |
| 8 | 感染源・感染経路からみた感染症 | |
| 9 | 滅菌と消毒、感染症の検査と診断 | |
| 10 | 感染症の治療、現状と対策 | |
| 11 | 病原細菌と細菌感染症 | |
| 12 | 病原真菌と真菌感染症、病原原虫と原虫感染症 | |
| 13 | 病原ウイルスとウイルス感染症 | |
| 14 | 症例発表、症例検討 | 講義、GW |
| 15 | 科目終了試験 | |
| 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進(4)微生物学 【医学書院】 ・プリント | | |
| 【サブテキスト】 <ul style="list-style-type: none"> ・パワーアップ問題演習 微生物学 【サイオ出版】 | | |

| | | |
|---|----------------------------|-------------|
| 【科目名】 臨床栄養学 | 【担当教員】 北林 紘 | |
| 【区分】 専門基礎分野 | | |
| 【開講時期】 1年次 前期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・人間にとっての栄養の意義と食生活のあり方を理解する ・食事療法の基礎的知識を理解する | | |
| 【授業形態】 <ul style="list-style-type: none"> ・講義、演習およびグループワーキング ・本科目は病院において、管理栄養士を務める教員が講義を行う | | |
| 【事前・事後学習】 事前に各臓器や疾病について予習し、講義終了後は配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【講義内容・講義項目】 | 【備考】 |
| 1 | 臨床栄養における看護師の役割 | |
| 2 | 栄養素と代謝、食事と QOL | |
| 3 | 栄養スクリーニング、栄養アセスメント、栄養ケアプラン | 演習含む |
| 4 | 経腸栄養と静脈栄養 | |
| 5 | 摂食嚥下障害の栄養管理 | 演習含む |
| 6 | 消化管疾患の栄養管理 | |
| 7 | 糖尿病患者の栄養管理 | |
| 8 | 腎臓病患者の栄養管理 | |
| 9 | 循環器・脂質異常症患者の栄養管理 | |
| 10 | 肝・胆・膵疾患患者の栄養管理 | |
| 11 | 貧血患者、周産期における栄養管理 | |
| 12 | 癌、周術期の栄養管理 | |
| 13 | サルコペニア・フレイルに対する栄養管理 | |
| 14 | 栄養指導の実際 | GW 含む |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | |
| 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・適宜、講師が配布します | | |

| | | |
|--|----------------------------|-------------|
| 【科目名】 薬理学 | 【担当教員】 桑島 治博 | |
| 【区分】 専門基礎分野 | | |
| 【開講時期】 2年次 前期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| 【科目目標】 ・臨床において適切な薬物療法を実践するために、薬物の薬理作用、副作用、生体と薬物の相互作用を理解し、臨床で使用される薬剤の正しい知識と適切な使用法を修得する | | |
| 【授業形態】 ・講義、GWD(Group Work Discussion)、問題演習 ・本科目は大学において、薬理学教育に関する実務経験を有する教員が講義、演習を行う | | |
| 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて専門用語を予習し、講義終了後に問題演習で知識の確認を行い、不明確な点はノートや配布資料等を用いて復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【講義内容・講義項目】 | 【備考】 |
| 1 | 薬物療法の目的、看護師の役割、薬理作用の基本形式 | 講義 |
| 2 | 薬物の作用機序、投与経路、体内動態 | 講義 |
| 3 | 薬物の副作用、薬物の連用、併用、相互作用 | 講義 |
| 4 | 医薬品の管理 法令、処方箋、添付文書、イエローレター | 講義、GWD |
| 5 | 抗感染症薬 | 講義、問題演習 |
| 6 | 抗がん薬 免疫治療薬 | 講義、問題演習 |
| 7 | 抗アレルギー薬・抗炎症薬 | 講義、問題演習 |
| 8 | 末梢神経作用薬、局所麻酔薬 | 講義、問題演習 |
| 9 | 中枢神経系作用薬(1) | 講義、問題演習 |
| 10 | 中枢神経系作用薬(2)鎮痛薬 | 講義、問題演習 |
| 11 | 心臓血管系に作用する薬物 | 講義、問題演習 |
| 12 | 血液系に作用する薬物 | 講義、問題演習 |
| 13 | 呼吸器、消化器 | 講義、GWD |
| 14 | 物質代謝に作用する薬物、漢方、消毒薬 | 講義、問題演習 |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | |
| 【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・多肢選択試験(80%)・レポート(20%)および出席状況によって評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進(3)薬理学 【医学書院】 | | |

| | | |
|--|-------------------------------------|-------------|
| 【科目名】 治療論 | 【担当教員】 織田 隆昭、林 達彦、齋藤芳秀、 高橋悠、佐久間要 | |
| 【区分】 専門基礎分野 | | |
| 【開講時期】 2年次 前期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| 【科目目標】 ・ 疾病の回復を促進する各治療及び検査の原理を理解する | | |
| 【授業形態】 講義 本科目は歯科医師として病院口腔外科において実務経験を有する教員が講義、演習を行う 本科目は歯科医師として病院歯科放射線科において実務経験を有する教員が講義、演習を行う 本科目は医師の資格を有し、看護師の教育に関する実務経験を有する教員が講義、演習を行う | | |
| 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【講義内容・講義項目】 | 【備考】 |
| 1 | 放射線治療の基礎 | 織田 |
| 2 | 放射線を用いた治療法 | 織田 |
| 3 | 手術療法の目的、診断法と手術手技・処置の基本 | 林 |
| 4 | 内視鏡を用いた治療法 | 林 |
| 5 | 麻酔の基礎と実際 | 齋藤 |
| 6 | 術前術後の患者管理と院内感染対策 | 齋藤 |
| 7 | 特殊栄養法（経腸栄養と経静脈栄養） | 高橋 |
| 8 | 手術侵襲と生体の反応 | 齋藤 |
| 9 | 炎症と外科的感染症 | 高橋 |
| 10 | 生体の損傷 | 佐久間 |
| 11 | 術後合併症とその管理 | 林 |
| 12 | 急性腹症と緊急手術 | 林 |
| 13 | 腫瘍の外科治療、癌の告知と終末期医療 | 佐久間 |
| 14 | 救急医療と心肺蘇生 | 齋藤 |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | 佐久間 |
| 【評価方法】 ・ 科目終了試験を実施 ・ 筆記試験によって評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 ・ 新体系看護学全書 別巻 治療法概説 【メヂカルフレンド社】 | | |

| | | | |
|------------|---|----------|-------|
| 【科目名】 | リハビリテーション概論 | 【担当教員】 | 長島 裕子 |
| 【区分】 | 専門基礎分野 | | |
| 【開講時期】 | 2年次 前期 | 【単位数】 | 1単位 |
| | | 【時間数】 | 15時間 |
| 【科目目標】 | <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの概念と実際、看護の役割・機能を理解する | | |
| 【授業形態】 | <ul style="list-style-type: none"> ・講義、GW(Group Working)、実技 ・本科目は、臨床現場で実務経験を有する教員が講義、演習を行う | | |
| 【事前・事後学習】 | <p>各講義終了前に次回内容の説明を行います。 配布資料及び指定教科書の該当部を予習して次講義に参加すること。なお、理解度を確認するために中間確認テストを行う場合もありますので、毎講義の復習をすることが望ましい。</p> | | |
| 【回数】 | 【講義内容・講義項目】 | 【備考】 | |
| 1 | オリエンテーション、リハビリテーションの概要について | 講義、GW | |
| 2 | リハビリテーションと入院期間(保険制度との関係) | 講義、GW | |
| 3 | 中枢神経疾患のリハビリテーション看護① | 講義、GW | |
| 4 | 〃 ② | 講義、GW、実技 | |
| 5 | 運動器疾患のリハビリテーション看護 | 講義、GW | |
| 6 | ・症例検討会 | 講義、GW、実技 | |
| 7 | ・講義内容全体復習および試験説明 | 講義、GW | |
| 8 | 科目終了試験 | | |
| 【評価方法】 | <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 | | |
| 【テキスト・教科書】 | <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 【医学書院】 | | |

| | | |
|---|--------------------------|------------|
| 【科目名】 社会福祉学 | 【担当教員】 山中 麻衣 | |
| 【区分】 専門基礎分野 | | |
| 【開講時期】 2年次 前期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・看護に必要な社会福祉・社会保障の知識を習得する ・社会福祉・社会保障の制度や実際を知り、身近な生活課題であることを理解する | | |
| 【授業形態】 講義 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う | | |
| 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【講義内容・講義項目】 | 【備考】 |
| 1 | 社会福祉・社会保障とは何か？ | |
| 2 | 社会福祉・社会保障の歴史 | |
| 3 | 社会福祉の担い手と役割 | |
| 4 | 社会福祉の実践方法 | |
| 5 | 社会資源の活用方法 | |
| 6 | ライフサイクルと社会福祉(1)子ども・家庭と福祉 | |
| 7 | 〃 (2)障害児・者と福祉 | |
| 8 | 〃 (3)難病対策 | |
| 9 | 〃 (4)高齢者と福祉 | |
| 10 | 生活保護 | |
| 11 | 地域福祉 | |
| 12 | 社会保障制度の概要(1)年金制度 | |
| 13 | 〃 (2)医療保険制度 | |
| 14 | 〃 (3)雇用保険・労災保険制度 | |
| 15 | 科目終了試験、試験の解説と講義の振り返り | |
| 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生がみえる【メディックメディア】 | | |

| | | |
|--|--------------------------|------------|
| 【科目名】 公衆衛生学 | 【担当教員】 山中 麻衣 | |
| 【区分】 専門基礎分野 | | |
| 【開講時期】 1年次 前期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| 【科目目標】 ・社会における公衆衛生の意義、および、活動方法の特性を理解する。 ・集団の健康状態を知る方法を理解する。 ・公衆衛生の基本となる疫学を理解する。 ・地域で行われている保健活動を理解する。 ・環境が及ぼす健康問題を理解する。 | | |
| 【授業形態】 講義 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う | | |
| 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【講義内容・講義項目】 | 【備考】 |
| 1 | 公衆衛生の意義、および、基本概念、変遷(1) | |
| 2 | 公衆衛生の意義、および、基本概念、変遷(2) | |
| 3 | 保健統計の種類と主な健康指標(1) | |
| 4 | 保健統計の種類と主な健康指標(2) | |
| 5 | 健康と環境・疫学(1) | |
| 6 | 健康と環境・疫学(2) | |
| 7 | 健康と環境・疫学(3) | |
| 8 | 地域における保健活動(1) | |
| 9 | 地域における保健活動(2) | |
| 10 | 地域における保健活動(3) | |
| 11 | 環境保健(1) | |
| 12 | 環境保健(2) | |
| 13 | 感染症に関する公衆衛生活動(1) | |
| 14 | 感染症に関する公衆衛生活動(2) | |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | |
| 【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 ・公衆衛生がみえる | | |
| 【メディックメディア】 | | |

| 【科目名】 関係法規 | 【担当教員】 桑野 京子 | |
|---|--------------------------|------------|
| 【区分】 専門基礎分野 | | |
| 【開講時期】 3年次 後期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| <p>【科目目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎知識ならびに保健医療関係法規を学ぶ ・看護職としての身分・業務・責任を理解し専門職としての自覚を持つことができる <p>【授業形態】 講義</p> <p>本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う</p> <p>【事前・事後学習】</p> <p>事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい</p> | | |
| 【回数】 | 【講義内容・講義項目】 | 【備考】 |
| 1 | 関係法規とは？ 基本となる法規 | |
| 2 | 看護師に関する法規 | |
| 3 | 医師、その他の医療職に関する法規 | |
| 4 | 薬物に関する法規 | |
| 5 | 社会保険に関する法規 | |
| 6 | 労働衛生に関する法規 | |
| 7 | 環境・食品・公害に関する法規 | |
| 8 | 感染症予防に関する法規 | |
| 9 | 母子および小児の保健と福祉に関する法規 | |
| 10 | 高齢者の保健と福祉に関する法規 | |
| 11 | 障害者の保健と福祉に関する法規 | |
| 12 | 医療提供体制に関する法規 | |
| 13 | 健康増進に関する法規 | |
| 14 | 地域保健、および、地域福祉に関する法律 | |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | |
| <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する | | |
| <p>【テキスト・教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新体系看護学全書 健康支援と社会保障 関係法規 【メヂカルフレンド社】 | | |

| | | |
|--|--------------------------|-------------|
| 【科目名】 医療概論 | 【担当教員】 林 達彦 | |
| 【区分】 専門基礎分野 | | |
| 【開講時期】 1年次 前期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・医学の発達、医療の体系と機能を学び、医療が担っている社会的役割を理解する ・現代医療における意義・あり方・問題を理解する 【授業形態】 <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・グループディスカッションと発表 ・本科目は医師の資格を有し、看護師の教育に関する実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 <p>事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい</p> | | |
| 【回数】 | 【講義内容・講義項目】 | 【備考】 |
| 1 | 医療システムを理解する ー日本の医療保険制度 | |
| 2 | 医療政策と医療計画 | |
| 3 | 在宅ケアと高齢者ケアシステム | |
| 4 | 救急医療と災害医療 | |
| 5 | 医療安全と対策 | |
| 6 | ヘルスプロモーションの科学 | |
| 7 | 老化、精神保健、リハビリテーション | |
| 8 | 細菌との戦いにみる医学の歴史 | |
| 9 | 日本の近代化と医療の発達、環境問題 | |
| 10 | 医療機器の発達と現状 | |
| 11 | ゲノム医学 | |
| 12 | 現代医療が目指すもの | |
| 13 | 診断と医療、生命倫理 | |
| 14 | 患者の権利、ターミナルケア | |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | |
| 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・学生のための医療概論 【医学書院】 | | |

| | | |
|---|---------------------------|-------------|
| 【科目名】 東洋医療 | 【担当教員】 吉田 眞夢 | |
| 【区分】 専門基礎分野 | | |
| 【開講時期】 2年次 前期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・東洋の医学における概念を理解する ・漢方医学の中でも、鍼灸を用いた医学の概要を理解する ・マッサージ・指圧・按摩など実際をとおして効果を理解する | | |
| 【授業形態】 <ul style="list-style-type: none"> ・本科目ははり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う | | |
| 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【講義内容・講義項目】 | 【備考】 |
| 1 | 西洋医学と東洋医学の概念 | |
| 2 | 東洋思想と日常生活 | |
| 3 | 東洋医学の基礎知識 | |
| 4 | 東洋医学からみる人体の構成要素（気・血・津液） | |
| 5 | 陰陽・五行学説 | |
| 6 | 温灸体験（せんねん灸） | |
| 7 | 四診について | |
| 8 | 臓腑弁証論について | |
| 9 | 食養生 | |
| 10 | あん摩、マッサージ、指圧、その他の手技療法（講義） | |
| 11 | 経路経穴の知識を活かしたハンドケア | |
| 12 | 経路経穴の知識を活かしたヘッドケア | |
| 13 | 経路経穴の知識を活かしたフットケア | |
| 14 | 症状緩和としてのツボ押し（ベッドサイドケア） | |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | |
| 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・看護師のための東洋医学入門 【医歯薬出版】 | | |

| | | |
|---|----------------------|------------|
| 【科目名】 生命倫理 | 【担当教員】 宮岡 洋三 | |
| 【区分】 専門基礎分野 | | |
| 【開講時期】 3年次 前期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 15時間 |
| <p>【科目目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代医療の現場における具体的な生命倫理の諸問題の内容を理解し、看護師としての倫理的な自覚を深める。 <p>【授業形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義とグループワーク <p>【事前・事後学習】</p> <p>講義開始前位には教科書の関係事項を予習し、講義終了後にはノートや図書室等の関連書籍を用いて授業内容の復習するのが望ましい</p> | | |
| 【回数】 | 【講義内容・講義項目】 | 【備考】 |
| 1 | 倫理学の基本的な考え方（序章、第1章） | |
| 2 | 生命倫理（第2章） | |
| 3 | 性と生殖の生命倫理（第3章） | |
| 4 | 死の生命倫理（第4章） | |
| 5 | 先端医療と制度をめぐる生命倫理（第5章） | |
| 6 | 事例分析－小児看護（第10章） | |
| 7 | 事例分析－精神看護（第10章） | |
| 8 | 科目修了試験および試験の解説 | |
| <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回提出される課題の結果と科目終了試験の結果とを総合して評価する。 | | |
| <p>【テキスト・教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 別巻 看護倫理【医学書院】 | | |

専門分野

| No. | 科目名 | 学年 | 開講時期 | 備考 |
|-----|-------------|-----|------|----|
| 37 | 基礎看護学概論Ⅰ | 1年生 | 前期 | |
| 38 | 基礎看護学概論Ⅱ | 3年生 | 前期 | |
| 39 | 基礎看護技術Ⅰ | 1年生 | 前期 | |
| 40 | 基礎看護技術Ⅱ | 1年生 | 前期 | |
| 41 | 基礎看護技術Ⅲ | 1年生 | 前期 | |
| 42 | 基礎看護技術Ⅳ | 1年生 | 前期 | |
| 43 | 基礎看護技術Ⅴ | 1年生 | 後期 | |
| 44 | 基礎看護技術Ⅵ | 1年生 | 後期 | |
| 45 | 基礎看護技術Ⅶ | 1年生 | 後期 | |
| 46 | 基礎看護技術Ⅷ | 1年生 | 後期 | |
| 47 | 基礎看護技術Ⅸ | 1年生 | 前期 | |
| 48 | 地域・在宅看護概論Ⅰ | 1年生 | 前期 | |
| 49 | 地域・在宅看護概論Ⅱ | 1年生 | 後期 | |
| 50 | 地域・在宅看護概論Ⅲ | 2年生 | 前期 | |
| 51 | 地域・在宅看護援助論Ⅰ | 2年生 | 前期 | |
| 52 | 地域・在宅看護援助論Ⅱ | 2年生 | 後期 | |
| 53 | 地域・在宅看護援助論Ⅲ | 3年生 | 前期 | |

専門分野

| No. | 科目名 | 学年 | 開講時期 | 備考 |
|-----|----------|----------|------|----|
| 54 | 成人看護学 | 成人看護学概論 | 1年生 | 通年 |
| 55 | | 成人看護援助論Ⅰ | 1年生 | 後期 |
| 56 | | 成人看護援助論Ⅱ | 2年生 | 前期 |
| 57 | | 成人看護援助論Ⅲ | 2年生 | 前期 |
| 58 | | 成人看護援助論Ⅳ | 2年生 | 後期 |
| 59 | | 成人看護援助論Ⅴ | 2年生 | 後期 |
| 60 | 老年看護学 | 老年看護学概論 | 1年生 | 後期 |
| 61 | | 老年看護援助論Ⅰ | 2年生 | 前期 |
| 62 | | 老年看護援助論Ⅱ | 2年生 | 前期 |
| 63 | | 老年看護援助論Ⅲ | 2年生 | 後期 |
| 64 | 小児看護学 | 小児看護学概論 | 1年生 | 後期 |
| 65 | | 小児看護援助論Ⅰ | 2年生 | 前期 |
| 66 | | 小児看護援助論Ⅱ | 2年生 | 前期 |
| 67 | | 小児看護援助論Ⅲ | 3年生 | 前期 |
| 68 | 母性看護学 | 母性看護学概論 | 1年生 | 後期 |
| 69 | | 母性看護援助論Ⅰ | 2年生 | 前期 |
| 70 | | 母性看護援助論Ⅱ | 2年生 | 前期 |
| 71 | | 母性看護援助論Ⅲ | 2年生 | 後期 |
| 72 | 精神看護学 | 精神看護学概論Ⅰ | 1年生 | 後期 |
| 73 | | 精神看護学概論Ⅱ | 2年生 | 前期 |
| 74 | | 精神看護援助論Ⅰ | 2年生 | 後期 |
| 75 | | 精神看護援助論Ⅱ | 2年生 | 後期 |
| 76 | 看護の統合と実践 | 臨床適応Ⅰ | 3年生 | 後期 |
| 77 | | 臨床適応Ⅱ | 2年生 | 後期 |
| 78 | | 臨床適応Ⅲ | 3年生 | 後期 |
| 79 | | 災害看護論 | 3年生 | 通年 |
| 80 | | 国際看護論 | 3年生 | 後期 |

| | | | |
|--|--------------------------|------------------------------|--------|
| 【科目名】 | 基礎看護学概論 I | 【担当教員】 | 安藤 とよ子 |
| 【区分】 | 専門分野 | | |
| 【開講時期】 | 1年次 前期 | 【単位数】 | 1単位 |
| | | 【時間数】 | 30時間 |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・看護の概念、看護の目的と機能を理解する ・看護の諸理論をふまえ、人間を統合的に捉える視点がわかる ・健康の概念を明らかにし、健康障害を持つ対象を理解する ・看護師の倫理的な判断の重要性と一般的な視点がわかる | | | |
| 【授業形態】 講義 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う | | | |
| 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 | |
| 1 | I：人間科学としての看護学 | 1. 学問としての看護 2. 患者中心の看護とは | |
| 2 | | 3. 看護とは何かを考える | |
| 3 | II：看護の過去から現在まで (歴史) | 1. 看護の変遷 2. 近代看護への道 | |
| 4 | | 3. 海外における職業的看護の発展 | |
| 5 | | 4. わが国の職業的看護の発展 | |
| 6 | III：看護実践における重要な概念 | 5. 看護の発展 (ナイチンゲール、ヘンダーソン他) | |
| 7 | | 1. 人間について考える | |
| 8 | IV：看護の役割と機能 | 2. 健康について考える | |
| 9 | | 1. 看護の役割と機能の理解 | |
| 10 | V：看護実践の方法 | 2. 保健・医療・福祉の連携 | |
| 11 | | 1. 看護技術 2. 看護過程 3. 臨床判断 | |
| 12 | VI：看護における論理と法 | 4. 「看護師＝患者」の援助関係と信頼関係 | |
| 13 | | 5. 対人コミュニケーション | |
| 14 | VII：看護実践を支えるもの | 1. 看護と法 2. 倫理とは何か | |
| 15 | | 3. 臨床倫理 4. 看護とインフォームドコンセント | |
| 16 | VIII：専門職としての看護 | 1. 看護制度、2. 看護行政、3. 看護の周近的な役割 | |
| 17 | | 1. 専門職とは 2. 専門職としての役割と自律 | |
| 18 | IX：医療安全 | 3. 専門職としての責任 4. 看護基礎教育の歴史の変遷 | |
| 19 | | 1. 医療事故と医療安全、2. 医療安全への取り組み | |
| 20 | X：グローバル社会と看護 | 3. 看護職能団体の取り組み | |
| 21 | | 4. 事故発生メカニズム、5. 事故対策 | |
| 22 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | 1. 異文化の理解 2. 非常時における学際的連携 | |
| 23 | | 3. 災害における看護 | |
| 24 | | ※まとめ | |
| 25 | | | |
| 【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・授業への参加・課題提出も評価の対象とする ・筆記試験によって評価する | | | |
| 【テキスト・教科書】 ・新体系看護学全書 専門分野 I 基礎看護学①看護学概論 【メヂカルフレンド社】 | | | |

| | | |
|--|-------------------------------------|------------|
| 【科目名】 基礎看護学概論Ⅱ | 【担当教員】 石山 正己 | |
| 【区分】 専門分野 | | |
| 【開講時期】 3年次 通年 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・看護研究の意義、および、研究方法の概要を理解する。 ・看護研究のプロセスを理解する。 ・ケーススタディを実施して看護の研究や実践の仕方を学ぶ。 【授業形態】 講義、演習（ケーススタディの作成・発表） 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う | | |
| 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【講義項目・内容】 | |
| 1 | 看護研究とは 看護研究の意義と目的 看護研究に必要な基礎知識 | |
| 2 | 研究方法の種類と各方法の特徴と展開 | |
| 3 | 研究における文献の活用、研究における倫理的配慮、研究のプロセスの概要 | |
| 4 | 研究のプロセス(1) ケーススタディの概要 研究計画書の書き方について | |
| 5 | 研究のプロセス(2) ケーススタディのすすめ方① 論文の書き方について | |
| 6 | 研究のプロセス(3) ケーススタディのすすめ方② 論文作成 | |
| 7 | 研究のプロセス(3) ケーススタディのすすめ方③ 論文作成 | |
| 8 | 研究のプロセス(3) ケーススタディのすすめ方④ 研究発表の進め方 | |
| 9 | 研究のプロセス(3) プレゼンテーションについて | |
| 10 | 研究のプロセス(3) プレゼンテーションについて | |
| 11 | ケーススタディ発表① | |
| 12 | ケーススタディ発表② | |
| 13 | ケーススタディ発表③ | |
| 14 | ケーススタディ発表④ | |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | |
| 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・レポートの作成・発表 ・課題、筆記試験によって評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・ひとりで学べる看護研究 【照林社】 | | |

| | | |
|--|--------------------------|--|
| 【科目名】 基礎看護技術 I | 【担当教員】 石山 正己 | |
| 【区分】 専門分野 | | |
| 【開講時期】 1年次 前期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・看護技術の概念を理解する ・対象の安全を守る看護技術について理解する ・対象の日常生活を支援するための教育的関わりを理解する 【授業形態】 講義・演習 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う | | |
| 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 |
| 1 | 看護技術の概念 | 技術とは何か/看護技術の位置づけ、種類と分類 |
| 2 | 感染予防 | 感染予防の意義と原則 |
| 3 | | 感染予防対策の基本（スタンダードプリコーションなど） |
| 4 | | 感染予防における看護師の責務と役割 |
| 5 | | 感染源対策（滅菌法、消毒法） |
| 6 | | 感染経路対策（手洗い、感染防護用具） |
| 7 | | 感染経路対策（無菌操作） |
| 8 | | 【演習】手洗い・個人防護用具の着脱・滅菌手袋の着脱 |
| 9 | 教育的機能 | 看護教育的機能の目的と役割について、指導の進め方①（指導目的、指導対象と指導場面）：事例提示 |
| 10 | | 指導の進め方②（指導方法、指導計画立案） |
| 11 | | 指導の進め方③（安全教育指導、指導の実施評価） |
| 12 | 安全管理 | 看護技術に求められる質と保障の考え方（安全性、安楽性、経済性） |
| 13 | | 看護における安全の意義・目的 |
| 14 | | 医療事故と事故防止の基礎知識、対象理解の重要性 |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | |
| 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・新体系看護学全書 専門分野 I 基礎看護学 基礎看護技術 I・II 【メヂカルフレンド社】 ・看護がみえる vol. 1・2 【メディックメディア】 | | |

| | | |
|--|--------------------------|---|
| 【科目名】 基礎看護技術Ⅱ | 【担当教員】 筒淵 志保 | |
| 【区分】 専門分野 | | |
| 【開講時期】 1年次 前期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| 【科目目標】 ・健康状態のアセスメントの目的、方法を理解する ・フィジカルアセスメントの方法を理解する 【授業形態】 講義・演習 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、シミュレーション等を活用した演習を行う 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 |
| 1 | フィジカルアセスメント | フィジカルアセスメントの目的／問診の技術 |
| 2 | | 【講義・演習】 視診・触診・打診・聴診の技術 |
| 3 | バイタルサイン測定 | バイタルサインの意義と測定方法①体温・脈拍・心拍 |
| 4 | | バイタルサインの意義と測定方法②血圧・呼吸 |
| 5 | | 【演習】 模擬患者に対するバイタルサイン測定（1回目） |
| 6 | | 【演習】 模擬患者に対するバイタルサイン測定（2回目） |
| 7 | フィジカルアセスメントの 実際 | フィジカルアセスメント①呼吸器系 |
| 8 | | フィジカルアセスメント②循環器系 |
| 9 | | フィジカルアセスメント③腹部・意識 |
| 10 | | 【演習】 模擬患者に対する呼吸音・心音・腸蠕動音の聴診 シミュレーションモデルを用いて対光反射の観察 |
| 11 | | 【演習】 模擬患者に対する呼吸音・心音・腸蠕動音の聴診 シミュレーションモデルを用いて対光反射の観察 |
| 12 | | 身体測定 |
| 13 | バイタルサイン測定 | 【演習】 模擬患者に対するバイタルサイン測定（3回目） |
| 14 | | 【演習】 模擬患者に対するバイタルサイン測定（3回目） |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | |
| 【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・課題、筆記試験によって評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 ・看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント【メディックメディア社】 ・新体系看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 【メヂカルフレンド社】 | | |

| | | |
|--|--------------------------|---|
| 【科目名】 基礎看護技術Ⅲ | | 【担当教員】 藤井 純 *河内 知子 |
| 【区分】 専門分野 | | |
| 【開講時期】 1年次 前期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| <p>【科目目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・快適な環境と援助方法について理解し、病床整備の技術を習得する ・活動と休息の意義を理解し、対象に適した援助を理解する <p>【授業形態】 講義・演習（シミュレーション等を活用する） 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う</p> <p>【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい</p> | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 |
| 1 | 姿勢と体位 | 看護における安楽の意義 安楽な姿勢と動作 |
| 2 | 活動・休息 | 活動、運動の効果とその援助の基本的な考え方と援助方法 |
| 3 | 姿勢と体位 | 安全・安楽で効果的な動きの援助（ボディメカニクス） |
| 4 | 姿勢と体位 | 【演習】 ボディメカニクスと体位変換、安楽な体位の活用 |
| 5 | 姿勢と体位 | 活動、運動の援助（車椅子移動、ストレッチャー移送、歩行介助） |
| 6 | 活動・休息 | 休息、睡眠の効果と臥床状態による心身への影響、休息・睡眠への援助 |
| 7 | 活動・休息 | 【演習】 車椅子移動 |
| 8 | 環境 | 生活環境の意義 * |
| 9 | | 病院、病棟の構造、設備、病室環境 * |
| 10 | | 【講義・演習】 1) リネンのたたみ方 * |
| 11 | | 【演習】 2) ベッドメイキング * |
| 12 | | 快適な生活環境と援助（ベッドの高さ、音、光、臭い）、病床環境における看護の役割 * |
| 13 | | 【演習】 3) 病床環境整備 * |
| 14 | | 【演習】 4) 臥床患者のシーツ交換 * |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | |
| <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 ・課題、筆記試験によって評価する | | |
| <p>【テキスト・教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新体系看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 【メヂカルフレンド社】 ・新体系看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 【メヂカルフレンド社】 ・看護がみえる vol. 1・2 【メディックメディア】 | | |

| | | |
|---|--------------------------|-------------------------------|
| 【科目名】 基礎看護技術Ⅳ | | 【担当教員】 佐久間 恵 *板垣 涼子 |
| 【区分】 専門分野 | | |
| 【開講時期】 1年次 前期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・清潔の意義を理解し、対象に応じた清潔保持行動への援助の方法を理解する ・寝衣の選択と条件について理解する ・模擬患者に対して寝衣の交換ができる ・模擬患者に対して、清拭を実施できる ・模擬患者に対して、洗髪を実践できる ・患者モデルに対して、陰部洗浄を実施できる ・模擬患者に対して、足浴・手浴を実施できる 【授業形態】 講義・演習（シミュレーション等を活用する） 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う | | |
| 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 |
| 1 | 身体の清潔の技術 衣生活への援助 | 衣服の意義、衣生活への援助方法 |
| 2 | 寝衣交換 | 【演習】寝衣交換の方法 |
| 3 | 身体の清潔と援助 | 清潔の意義、身体清潔の基礎知識、清拭の方法、入浴介助の方法 |
| 4 | | 【演習】実験：湯の温度とタオルの温度変化 |
| 5 | | 【演習】模擬患者に対する全身清拭（1回目） |
| 6 | | 【演習】模擬患者に対する全身清拭・寝衣交換（2回目） |
| 7 | | 【演習】模擬患者に対する全身清拭・寝衣交換（2回目） |
| 8 | | 洗髪の方法 * |
| 9 | | 【演習】洗髪 * |
| 10 | | 足浴、手浴 * |
| 11 | | 【演習】足浴、手浴 * |
| 12 | | 陰部洗浄、陰部清拭の方法 * |
| 13 | | 【演習】陰部洗浄 * |
| 14 | | 整容、爪きり、口腔ケア * |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | |
| 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・新体系看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ【メヂカルフレンド社】 ・看護がみえる vol. 1【メディックメディア】 | | |

| | | |
|---|--------------------------|--|
| 【科目名】 基礎看護技術V | | 【担当教員】 相川 澄子 |
| 【区分】 専門分野 | | |
| 【開講時期】 1年次 後期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・看護の展開技術としての看護過程を理解する。 ・模擬事例を用いて、実際に看護過程を展開できる。 ・看護における記録・報告の意義と方法を理解する 【授業形態】 講義・演習（事例展開） 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う | | |
| 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 |
| 1 | ヘンダーソン看護論 看護過程の概念 | 「看護の基本となるもの」について 看護過程の構成要素 看護過程を用いる意義 |
| 2 | 看護過程の展開の実際 | アセスメント①情報収集（常在条件） |
| 3 | | アセスメント②情報収集（病理的状态）（講義・演習） |
| 4 | | アセスメント③情報収集（病理的状态）（演習） |
| 5 | | アセスメント④情報の分類、分析・解釈（講義・演習） |
| 6 | | アセスメント⑤情報の分類、分析・解釈（演習） |
| 7 | | アセスメント⑥情報の分類、分析・解釈（講義・演習） |
| 8 | | アセスメント⑦情報の分類、分析・解釈（講義・演習） |
| 9 | | アセスメント⑧情報の分類、分析・解釈（演習）全体像（講義） |
| 10 | | アセスメント⑨全体像（演習） |
| 11 | | アセスメント⑩全体像（講義・演習） |
| 12 | | 看護問題の明確化と目標設定（講義・演習） |
| 13 | | 看護計画の立案・記録の方法・評価の方法 |
| 14 | | 看護記録の目的 記録の種類 記録記入上の注意点 |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | |
| 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 【ヌーベルヒロカワ】 ・看護の基本となるもの【日本看護協会出版会】 ・新体系看護学全書 専門分野 I 基礎看護学②③ 基礎看護技術 I・II【メヂカルフレンド社】 ・看護に役立つ検査事典 【照林社】 電子辞書持参 | | |

| | | |
|---|----------------------------|---|
| 【科目名】 基礎看護技術Ⅵ | 【担当教員】 石山 正己 | |
| 【区分】 専門分野 | | |
| 【開講時期】 1年次 後期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・経過に焦点をあて、各経過の概念と基本的な看護の方向性を理解する ・主要症状を持つ対象の苦痛を理解する ・主要症状（呼吸困難・循環障害）に対する具体的な看護技術を修得する ・治療、処置時にある対象のニーズと看護の基本を理解する ・医療機器の原理を知り、基本的な操作について理解する 【授業形態】 講義・演習（シミュレーション等を活用する） 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う | | |
| 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 |
| 1 | 経過に基づく看護 | 経過別看護の考え方と各経過別の看護の特徴① |
| 2 | | 経過別看護の考え方と各経過別の看護の特徴② |
| 3 | 主要症状を持つ対象の看護（呼吸困難、痛み、循環障害） | 症状、苦痛が発生するメカニズム |
| 4 | | 主要症状に対する看護方法（呼吸困難） |
| 5 | | 主要症状に対する看護方法（循環障害） |
| 6 | | 酸素吸入療法 |
| 7 | | 酸素吸入療法（酸素ボンベ） |
| 8 | | 安楽な呼吸の確保（吸引） |
| 9 | | 発熱時・疼痛時の安楽：温罨法、冷罨法 |
| 10 | | 胸腔ドレナージ |
| 11 | 検査に対する看護 | 主な検査と検査に伴う看護 検体検査：生体検査 |
| 12 | 医療機器の原理と実際 | 医療機器の目的と種類、取り扱い上の基本的事項（人工呼吸器、輸液ポンプ、モニター心電図） |
| 13 | | 【演習】輸液ポンプ、シリンジポンプの取り扱い |
| 14 | 創傷保護の看護 | 【演習】包帯法の原則 |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | |
| 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・新体系看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 【メヂカルフレンド社】 ・看護がみえる vol.2 【メディックメディア】 ・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学(4)臨床看護総論 【医学書院】 | | |

| | | |
|---|--------------------------|--------------------------|
| 【科目名】 基礎看護技術Ⅶ | | 【担当教員】 難波 弘美 *石山 正己 |
| 【区分】 専門分野 | | |
| 【開講時期】 1年次 後期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・薬物療法における看護師の役割について理解する ・与薬法を安全かつ正確に実施する知識を理解する ・注射法を安全かつ正確に実施する基本的技術を習得する ・救急看護における看護師の役割について理解する ・救急処置に必要な基本的技術を習得する 【授業形態】 講義・演習（シミュレーション等を活用する） 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う | | |
| 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 |
| 1 | 薬物療法 | 薬物療法とは 薬物療法における看護師の役割 |
| 2 | | 経口与薬法、口腔与薬法、直腸内与薬法 |
| 3 | | 注射法とは 皮下注射法 筋肉内注射法 |
| 4 | | 【演習】注射の準備 |
| 5 | | 【演習】皮下注射法の実際 |
| 6 | | 【演習】筋肉内注射法の実際 |
| 7 | | 静脈内注射法、点滴静脈内注射法 |
| 8 | | 【演習】点滴静脈内注射法の準備 |
| 9 | | 【演習】点滴静脈内注射法の実際 |
| 10 | | 輸血療法 |
| 11 | 救命救急処置 | 救急看護とは 救命救急処置の基礎知識 * |
| 12 | | 出血・中毒・窒息状態にある対象の看護 * |
| 13 | | 心肺停止状態にある対象の看護 * |
| 14 | | 【演習】一次救命処置 * |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | |
| 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 ・課題、筆記試験によって評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・新体系看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 【メヂカルフレンド社】 ・看護がみえる vol.1・2 【メディックメディア】 | | |

| | | |
|---|--------------------------|----------------------------|
| 【科目名】 基礎看護技術Ⅷ | 【担当教員】 鈴木 志麻 | |
| 【区分】 専門分野 | | |
| 【開講時期】 1年次 後期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 食事の意義と援助の必要性および援助方法を理解する ・ 食事介助技術を習得する ・ 排泄の意義と援助の必要性および援助方法を理解する ・ 排泄の援助技術(便器・尿器・おむつのあて方・グリセリン浣腸・導尿)を習得する | | |
| 【授業形態】 講義・演習(シミュレーション等)を行う 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う | | |
| 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 |
| 1 | 食事 | 食事・栄養摂取の意義としくみ、アセスメント |
| 2 | | 食事の基本的援助 |
| 3 | | 【演習】 食事介助の実際 |
| 4 | | 【演習】 食事介助の実際 |
| 5 | | 非経口栄養(経腸栄養・静脈栄養) |
| 6 | 排泄 | 排泄の意義としくみ、アセスメント |
| 7 | | 排泄の基本的援助 |
| 8 | | 【演習】 排泄援助の実際：便器・尿器・おむつのあて方 |
| 9 | | 【演習】 排泄援助の実際：便器・尿器・おむつのあて方 |
| 10 | | 排便障害と援助 |
| 11 | | 【演習】 排泄援助の実際：グリセリン浣腸 |
| 12 | | 排尿障害と援助 |
| 13 | | 【演習】 排泄援助の実際：導尿 |
| 14 | | 【演習】 排泄援助の実際：導尿 |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | |
| 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 科目終了試験を実施 ・ 筆記試験によって評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新体系看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ【メヂカルフレンド社】 ・ 看護がみえる vol. 1・2【メディックメディア】 | | |

| | | |
|--|--------------------------|--|
| 【科目名】 基礎看護技術Ⅸ | 【担当教員】 筒淵 志保 | |
| 【区分】 専門分野 | | |
| 【開講時期】 1年次 前期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 15時間 |
| 【科目目標】 ・対人関係を成立・発展させるためのコミュニケーション技術の基本が理解できる ・コミュニケーションにおける自己の傾向について理解できる 【授業形態】 講義・演習 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、シミュレーション演習を行う 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 |
| 1 | 序章 | コミュニケーションとは何か |
| 2 | コミュニケーション論 | コミュニケーションの種類／影響するもの |
| 3 | 看護におけるコミュニケーション | 医療・看護におけるコミュニケーション／質問技法 |
| 4 | | 【講義・シミュレーション演習】積極的傾聴と共感 |
| 5 | | 【講義・シミュレーション演習】関係構築の技法 |
| 6 | 高度なコミュニケーション | 多職種連携・患者家族とのコミュニケーション コミュニケーションに障害がある人とのコミュニケーション |
| 7 | | 【講義・シミュレーション演習】看護面接 |
| 8 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | |
| 【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 ・看護コミュニケーション 基礎から学ぶスキルとトレーニング 【医学書院】 | | |

| 【科目名】 地域・在宅看護概論 I | 【担当教員】 鈴木 志麻 *外部講師 | |
|---|--------------------|-----------------------|
| 【区分】 専門分野 | | |
| 【開講時期】 1年次 前期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 15時間 |
| <p>【科目目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暮らすということを説明できる ・村上市の暮らしについて理解する <p>【授業形態】 講義</p> <p>本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義を行う</p> <p>【事前・事後学習】</p> <p>事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい</p> | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 |
| 1 | 暮らしについて | 暮らすということはどういうことか |
| 2 | | 支え合って生きるとは |
| 3 | 看護が提供されている場 | 看護が提供されている場とは |
| 4 | 地域社会を理解する | 村上市の暮らしの概要について * |
| 5 | | 村上市の暮らしについて調べる GW |
| 6 | | 調べた内容をパワーポイントでまとめる GW |
| 7 | | 発表会 |
| 8 | 科目終了試験 | |
| <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する | | |
| <p>【テキスト・教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア【メディカ出版】 | | |

| | | |
|---|--------------------|--|
| 【科目名】 地域・在宅看護概論Ⅱ | 【担当教員】 河内 知子 *外部講師 | |
| 【区分】 専門分野 | | |
| 【開講時期】 1年次 後期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 15時間 |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・地域・在宅看護の概念・特性を説明することができる ・地域・在宅看護の対象（在宅療養者・家族）の特性、現状を説明することができる ・在宅療養者とその家族に対する看護制度を説明することができる ・在宅療養者とその家族に対する医療・介護保険制度を説明することができる ・村上市の在宅療養者の現状を理解する。 | | |
| 【授業形態】 講義 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義を行う | | |
| 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 |
| 1 | 地域・在宅看護の概念 | 地域・在宅看護の概念 在宅看護が求められてきた背景 在宅看護と病院内看護の違い 在宅看護の役割 |
| 2 | 在宅療養者の特徴 | 地域・在宅看護の対象者 |
| 3 | | 村上市の在宅療養者の現状を理解 * |
| 4 | 在宅療養者とその家族を支える制度 | 訪問看護制度① |
| 5 | | 訪問看護制度② |
| 6 | | 在宅看護に係る法令・制度 ① |
| 7 | | 在宅看護に係る法令・制度 ② |
| 8 | 科目終了試験 | |
| 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア【メディカ出版】 ・公衆衛生がみえる 【メディックメディア】 | | |

| | | |
|---|---------------------------|--|
| 【科目名】 地域・在宅看護概論Ⅲ | 【担当教員】 相川 澄子 *外部講師 | |
| 【区分】 専門分野 | | |
| 【開講時期】 2年次 前期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 15時間 |
| 【科目目標】 ・地域・在宅療養者の健康と暮らしを支える看護について理解する ・地域・在宅看護の対象とその家族に対する自己決定への支援方法について理解する。 ・ | | |
| 【授業形態】 講義 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義を行う | | |
| 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 |
| 1 | 地域・在宅療養者の自己決定への支援 | 在宅看護の基本理念・自己決定への支援方法① |
| 2 | | 自己決定への支援方法② |
| 3 | 地域・在宅療養者とその家族が暮らし続けるための支援 | 在宅療養者の家族への看護① アセスメントの視点 * |
| 4 | | 在宅療養者の家族への看護② 支援内容 * |
| 5 | | 地域包括ケアシステムにおける看護師の役割 多職種連携、協働の意義と方法 |
| 6 | | ケアマネジメントの必要性 |
| 7 | | 自助・互助・共助・公助の意義と役割 インフォーマルネットワークについて |
| 8 | 科目終了試験 | |
| 【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 ・ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア【メディカ出版】 | | |

| | | |
|---|--------------------------|--------------------|
| 【科目名】 地域・在宅看護援助論 I | 【担当教員】 藤井 純 | |
| 【区分】 専門分野 | | |
| 【開講時期】 2年次 通年 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| 【科目目標】 ・地域・在宅看護の展開方法（訪問看護）と留意事項を説明することができる。 ・地域・在宅療養者とその家族に対する援助技術の基本を習得することができる。 | | |
| 【授業形態】 講義・演習（シミュレーション等を活用する） 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う | | |
| 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 |
| 1 | 在宅療養者とその家族に対する援助技術 | 食の援助(1) 講義 |
| 2 | | 食の援助(2) 演習 |
| 3 | | 清潔の援助(1) 講義 |
| 4 | | 清潔の援助(2) 演習 |
| 5 | | 排泄の援助(1) 講義 |
| 6 | | 排泄の援助(2) 演習 |
| 7 | | 睡眠の援助(1) 講義 |
| 8 | | 睡眠の援助(2) 演習 |
| 9 | | 服薬の援助(1) 講義 |
| 10 | | 服薬の援助(2) 演習 |
| 11 | | 移動の援助、肢位の保持 (1) 講義 |
| 12 | | 移動の援助、肢位の保持 (2) 演習 |
| 13 | | 住まい・生活環境(1) 講義 |
| 14 | | 住まい・生活環境(2) 演習 |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | |
| 【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 ・ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア【メディカ出版】 ・ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 地域療養を支える技術【メディカ出版】 | | |

| | | | |
|--|---------------------------------|-------------------------------|------|
| 【科目名】 地域・在宅看護援助論Ⅱ | 【担当教員】 相川 澄子 藤井 純 筒渕 志保 外部講師 | | |
| 【区分】 専門分野 | | | |
| 【開講時期】 2年次 後期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 | |
| 【科目目標】 ・地域・在宅療養者に対する医療処置、各種医療機器の管理の方法を理解する 【授業形態】 講義・演習（シミュレーション等を活用する） 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 | 【担当】 |
| 1 | 医療依存度の高い療養者と家族への援助 | 在宅における褥瘡ケア／間欠導尿および膀胱留置カテーテル管理 | 相川 |
| 2 | | 在宅療養における中心静脈栄養の管理 | |
| 3 | | 在宅経管栄養法 | 藤井 |
| 4 | | 【演習】在宅での経鼻経管栄養の管理 | |
| 5 | | 【演習】在宅での経鼻経管栄養の管理 | |
| 6 | | 在宅療養における人工呼吸療法の管理 | 外部講師 |
| 7 | | 【演習】在宅での人工呼吸器療法の管理 | |
| 8 | | 在宅療養における非侵襲的陽圧換気療法 | |
| 9 | | 在宅療養における在宅酸素療法の管理 | |
| 10 | | 在宅療養におけるストーマの管理 | 筒渕 |
| 11 | | 在宅看護における疼痛管理 | 相川 |
| 12 | | 外来がん治療の支援 | |
| 13 | | 継続看護の意義と方法 | |
| 14 | | まとめ | |
| 15 | | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | |
| 【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する | | | |
| 【テキスト・教科書】 ・ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア【メディカ出版】 ・ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 地域療養を支える技術【メディカ出版】 | | | |

| 【科目名】 地域・在宅看護援助論Ⅲ | | 【担当教員】 藤井 純 相川 澄子 | |
|---|--|--|------------|
| 【区分】 専門分野 | | | |
| 【開講時期】 3年次 前期 | | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| <p>【科目目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域・在宅療養者の疾患・障害に応じた看護方法、および、家族への支援方法を理解する <p>【授業形態】 講義・演習（シミュレーション等を活用する） 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う</p> <p>【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい</p> | | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 | 【担当】 |
| 1 | 訪問看護の実際 地域で療養生活を送る人と家族のアセスメント 在宅療養者への支援の方法 | 訪問看護の展開方法・訪問時の留意事項 | 藤井 |
| 2 | | 初回訪問のシミュレーション（1） | |
| 3 | | 初回訪問のシミュレーション（2） | |
| 4 | | 治療の場から在宅への移行期 安定期 在宅リハビリテーション期 急性増悪期 終末期 | |
| 5 | | 療養者・家族へのアセスメントの実際 | |
| 6 | | 精神障害者とその家族への看護 移行期 | |
| 7 | | 精神障害者とその家族への看護 事例展開 | |
| 8 | | 重症心身障害児とその家族への看護① 安定期 | 相川 |
| 9 | | 重症心身障害児とその家族への看護② 事例展開 | |
| 10 | | パーキンソン高齢者とその家族への看護① リハビリテーション期 事例展開 | |
| 11 | | パーキンソン高齢者とその家族への看護② | |
| 12 | | 終末期の療養者とその家族への看護① 終末期 | |
| 13 | | 終末期の療養者とその家族への看護② | |
| 14 | | 多職種連携について事例を通して考える | |
| 15. | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | | |
| <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する | | | |
| <p>【テキスト・教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア【メディカ出版】 ・ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 地域療養を支える技術【メディカ出版】 | | | |

| 【科目名】 成人看護学概論 | | 【担当教員】 安藤 とよ子 |
|---|--------------------------|--|
| 【区分】 専門分野 | | |
| 【開講時期】 1年次 通年 | | 【単位数】 1単位 |
| 【時間数】 30時間 | | |
| 【科目目標】 ・人間のライフサイクルに照らし合わせて、成人期にある人の身体的、心理的、社会的な特徴を理解する ・成人期にある人の健康と健康障害について理解する ・成人の健康レベルに応じた看護を理解する ・成人看護に活用できる理論について理解する | | |
| 【授業形態】 講義 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義を行う | | |
| 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 |
| 1 | 1) 成人とは | (1) 人の一生における成人期の位置 |
| 2 | | (2) 成長・発達過程からみた成人の特徴 (青年期・壮年期・向老期) |
| 3 | 2) 成人を取り巻く社会環境と成人の生活 | (1) 社会のなかで生活を営むということ、(2) 働くことと生活 |
| 4 | | (3) 家族との関係、(4) 多様なライフサイクル |
| 5 | 3) 成人の健康の動向と保健・医療・福祉政策 | (1) 保健統計からみた成人の健康の動向 |
| 6 | | (2) 成人各期に特徴的な健康問題 |
| 7 | | (3) 成人を対象とした保健・医療・福祉政策 |
| 8 | 4) 健康問題をもつ成人に関わる際の基本的な視点 | (1) 成人期にある人が健康障害をもつことの意味 |
| 9 | | (2) 健康生活を支える人間関係の構築 (3) 患者・家族の意思決定を支える (4) 健康の危機状態への適応 |
| 10 | 5) 成人の健康状態に応じた看護 | (1) 健康の保持・増進のための支援 (2) 急性期：健康の危機状態への支援 |
| 11 | | (3) 周術期：手術療法を必要とする成人への看護 (4) 成人患者の回復期への移行 |
| 12 | | (5) 慢性期：健康生活の継続への支援 (6) リハビリテーションを必要とする成人への看護：生活の再構築への支援 |
| 13 | | (7) 終末期：人生の最期を迎える人と家族に寄り添う (8) がん治療を必要とする成人の看護 |
| 14 | | (1) 成人期にある人々の療養の場 (2) 成人期にある人々の退院支援 (3) 退院後の成人期にある人々の看護 ※まとめ |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | |
| 【評価方法】 ・科目終了試験を実施（筆記試験によって評価する） ・欠席や遅刻、授業への参加態度、課題等も評価の対象とする | | |
| 【テキスト・教科書】 ・新体系看護学全書 成人看護学概論/成人保健 成人看護学1 【メジカルフレンド社】 | | |

| | | | |
|------------|---|---|--------------------|
| 【科目名】 | 成人看護援助論 I | | |
| 【区分】 | 専門分野 | 【担当教員】 | ○安藤とよ子 ☆佐久間恵 ＊外部講師 |
| 【開講時期】 | 1年次 後期 | 【単位数】 | 1単位 |
| | | 【時間数】 | 30時間 |
| 【科目目標】 | <ul style="list-style-type: none"> 慢性期にある成人の特徴を理解する 慢性期にある成人とその家族への看護を理解する 慢性疾患患者に必要な看護技術が習得できる | | |
| 【授業形態】 | 講義・演習 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う | | |
| 【事前・事後学習】 | 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 | |
| 1 | 慢性的な経過をたどる人の看護 | 慢性期の特徴と看護 | ○ |
| 2 | | セルフケア行動形成を促す患者・家族への援助 | ○ |
| 3 | 糖代謝障害のある人の看護 | 糖代謝障害のある人のアセスメントと援助方法 | ＊ |
| 4 | | 糖尿病をコントロールする生活援助および症状に応じた看護、糖尿病患者の指導の実際 | ＊ |
| 5 | | 【演習】：自己血糖測定 | ＊ |
| 6 | 内分泌機能に障害のある人の看護 | 甲状腺機能亢進・低下症患者の看護 | ☆ |
| 7 | 肝機能に障害のある人の看護 | 肝機能障害の人のアセスメントおよび援助方法 | ☆ |
| 8 | | 肝炎患者の看護 | ☆ |
| 9 | | 肝硬変患者の看護 | ☆ |
| 10 | 呼吸機能に障害のある人の看護 | 呼吸機能に障害のある人のアセスメントおよび援助方法 | ＊ |
| 11 | | 慢性閉塞性肺疾患患者の看護 | ＊ |
| 12 | 腎機能に障害のある人の看護 | 腎機能障害の人のアセスメントおよび援助方法 | ○ |
| 13 | | 腎不全患者の看護 | ○ |
| 14 | | 透析療法を受ける患者の看護 | ○ |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | | |
| 【評価方法】 | <ul style="list-style-type: none"> 科目終了試験を実施 筆記試験によって評価する 授業への参加態度・課題提出も評価の対象とする 健康障害（病態生理）については、自己学習して参加することを期待する | | |
| 【テキスト・教科書】 | <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(2) 呼吸器 【医学書院】 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(5) 消化器 【医学書院】 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(6) 内分泌・代謝 【医学書院】 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(8) 腎・泌尿器 【医学書院】 | | |
| 【サブテキスト】 | <ul style="list-style-type: none"> ・病気がみえる vol.1・2 【メディックメディア】 ・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学(4) 臨床看護総論 【医学書院】 | | |

| | | |
|---|--------------------------|--------------------------------------|
| 【科目名】 成人看護援助論Ⅱ | 【担当教員】 相川 澄子 ○ 安藤 とよ子 | |
| 【区分】 専門分野 | | |
| 【開講時期】 2年次 前期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| <p>【科目目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回復過程にある成人の特徴を理解する ・回復過程にある成人とその家族への看護を理解する ・回復過程にある成人の看護過程が展開できる <p>【授業形態】 講義・演習（事例展開） 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う</p> <p>【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい</p> | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 |
| 1 | 回復過程にある人の看護 | 回復期の特徴と看護 ○ |
| 2 | 運動機能障害のある人の看護 | 運動障害がある人のアセスメントおよび援助方法 ○ |
| 3 | | 1) 運動機能障害・二次障害 2) 障害受容過程 3) 家族の心理 |
| 4 | | 4) 関節可動域訓練 5) 社会資源の活用、継続看護 ○ |
| 4 | 骨・関節系に障害のある人の看護 | 骨折患者の看護 ○ |
| 5 | | 関節リウマチ患者の看護 ○ |
| 6 | 脊髄神経障害のある人の看護 | 脊髄神経障害をもつ人のアセスメントおよび援助方法 ○ |
| 7 | | 脊髄損傷患者の看護 ○ |
| 8 | 回復期にある人の看護過程の展開 | 脳梗塞患者の看護 |
| 9 | | 事例展開 脳梗塞患者のアセスメント①（情報収集） |
| 10 | | アセスメント②（情報分析・解釈） |
| 11 | | アセスメント③（情報分析・解釈） |
| 12 | | アセスメント④（全体像） |
| 13 | | 看護問題の明確化、目標設定 |
| 14 | | 看護計画の立案 |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | |
| <p>【評価方法】・筆記試験と記録物（看護過程の展開）の提出によって評価する 科目終了試験：80点、記録物（看護過程の展開）の提出：20点、合計100点満点</p> | | |
| <p>【テキスト・教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(10) 運動器 【医学書院】 <p>【サブテキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学(4) 臨床看護総論 【医学書院】 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(7) 脳・神経 【医学書院】 ・系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 【医学書院】 | | |

| | | | |
|--|-------------------------------|--------------------|------|
| 【科目名】 成人看護援助論Ⅲ | 【担当教員】 佐久間 恵 石山 正己 *は非常勤講師 | | |
| 【区分】 専門分野 | | | |
| 【開講時期】 2年次 前期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 | |
| 【科目目標】 ・生命の危機状態にある成人の特徴を理解する ・生命の危機状態に応じた治療・検査・療養管理に伴う看護について説明できる 【授業形態】 講義・演習（シミュレーション等を活用する） 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 | 【担当】 |
| 1 | 生命危機状態にある人の看護 | 急激な侵襲による身体の反応と看護活動 | 佐久間 |
| 2 | | 危機的状態への精神的援助 | |
| 3 | | ショック状態患者の看護 | |
| 4 | | 熱傷患者の看護 | |
| 5 | 脳神経障害のある人の看護 | 脳出血急性期の患者の看護① | * |
| 6 | | 脳出血急性期の患者の看護②：演習 | |
| 7 | | クモ膜下出血患者の看護 | |
| 8 | 呼吸機能障害のある人の看護 | 急性呼吸不全の患者の看護 | * |
| 9 | | 急性呼吸不全の患者の看護：演習 | |
| 10 | | 人工呼吸器装着中の看護 | |
| 11 | 循環機能障害のある人の看護 | 急性心不全患者の看護 | 石山 |
| 12 | | 急性心筋梗塞患者の看護 | |
| 13 | | 学内演習：12誘導心電図装着 | |
| 14 | | ペースメーカー装着患者の看護 | |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | | |
| 【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する ・健康障害（病態生理）については、自己学習して参加することを期待する | | | |
| 【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(2)呼吸器 【医学書院】 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(3)循環器 【医学書院】 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(7)脳・神経 【医学書院】 【サブテキスト】 ・看護がみえる vol.3【メディックメディア】 ・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学(4) 臨床看護総論 【医学書院】 | | | |

| 【科目名】 成人看護援助論Ⅳ | 【担当教員】 河内 知子 | | |
|---|---------------------------|---------------------|--------------|
| 【区分】 専門分野 | | | *外部講師 |
| 【開講時期】 2年次 後期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 | |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・治療及び回復が困難な成人の特徴とその看護を理解する ・悪性疾患により長い治療経過にある成人の特徴とその看護を理解する ・終末期にある成人の特徴を理解する ・終末期にある成人とその家族の看護を理解する 【授業形態】 講義 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義を行う | | | |
| 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 | 備考 |
| 1 | 悪性疾患により長い治療経過にある人の特徴と援助方法 | がんという疾病の心理・社会的な特殊性 | |
| 2 | 終末期にある人の特徴と看護 | 人間の死とは、日本人の死生観の特徴 | * |
| 3 | | 終末期の特徴、緩和ケアと看護師の役割 | |
| 4 | | 身体的苦痛と看護 | |
| 5 | | 精神的苦痛と看護 | |
| 6 | | 痛みに対する薬剤の活用法 | * |
| 7 | | 終末期にある患者の生活援助 | |
| 8 | | 化学療法を受ける患者の看護 | |
| 9 | | 意思決定、ACP | * |
| 10 | | 家族ケア、グリーフケア、悲嘆のプロセス | |
| 11 | | 臨死期のケア、死後の処置 | |
| 12 | | 治療困難な状況にある人の看護 | 筋委縮性側索硬化症の看護 |
| 13 | 造血器に障害のある人の看護、放射線療法時の看護 | | |
| 14 | 現代医療の課題 | 安楽死・尊厳死・臓器移植 | |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | | |
| 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験と課題レポートによって評価する | | | |
| 【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・ナーシング・グラフィカ 成人看護学 緩和ケア 【メディカ出版】 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(4) 血液・造血器 【医学書院】 【サブテキスト】 <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学(4) 臨床看護総論 【医学書院】 ・新体系看護学全書 成人看護学概論/成人保健 成人看護学1 【メジカルフレンド社】 ・公衆衛生がみえる 【メディックメディア】 | | | |

| | | |
|---|--------------------------|-------------------------------|
| 【科目名】 成人看護援助論V | 【担当教員】 筒渕 志保 | *外部講師 |
| 【区分】 専門分野 | | |
| 【開講時期】 2年次 後期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・身体侵襲を受けた成人の特徴と看護を理解する ・周手術期にある成人の特徴を理解する ・周手術期にある成人とその家族への看護を理解する ・周手術期患者に必要な看護技術を理解する 【授業形態】 講義・演習（シミュレーション等を活用する） 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う | | |
| 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 |
| 1 | 周手術期の看護の役割 | 周手術期と周手術期看護の役割と目的 |
| 2 | 身体侵襲を受けた人への援助 | 周手術期に起こる生体の変化 |
| 3 | 手術過程に応じた看護支援 | 周手術過程に応じた看護① 術前の看護 |
| 4 | | 周手術過程に応じた看護② 術中の看護 |
| 5 | | 周手術過程に応じた看護③ 術後の看護 |
| 6 | | 周手術過程に応じた看護④ 術後の継続看護 |
| 7 | | 【シミュレーション演習】術後の観察・援助 |
| 8 | 術式・機能障害別の周手術期看護 | 消化代謝器官に障害のある人の手術・看護（上部消化管腫瘍） |
| 9* | | 消化代謝器官に障害のある人の手術・看護（下部消化管腫瘍）* |
| 10* | | 【シミュレーション演習】ストーマサイトマーキングの実際 * |
| 11 | | 【シミュレーション演習】食事指導 |
| 12 | | 性・生殖器系に障害のある人の手術・看護（乳癌） |
| 13 | | 臓器移植を必要とする人の手術・看護（腎移植） |
| 14 | | 既往疾患のある場合の回復過程 |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | |
| 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 ・課題、筆記試験によって評価する ・健康障害（病態生理）については、ワークブックを用いて自己学習し講義に参加すること | | |
| 【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・ナーシング・グラフィカ 成人看護学④ 周術期看護 【メディカ出版】 ・周手術期看護 学習ワークブック 【メヂカルフレンド社】 | | |

| | | |
|--|--------------------------|------------------------|
| 【科目名】 老年看護学概論 | 【担当教員】 相川 澄子 | |
| 【区分】 専門分野 | | |
| 【開講時期】 1年次 後期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 老年期にある対象の身体的、精神的、社会的特徴を理解する ・ 老年期にある対象への保健医療福祉の動向を理解する ・ 高齢者を取り巻く倫理的課題について理解する ・ 老年看護の目標を理解する | | |
| 【授業形態】 講義 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義を行う | | |
| 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 |
| 1 | 高齢者の理解 | 老いるということ |
| 2 | | 老年期の特徴 |
| 3 | | 高齢社会の理解 |
| 4 | | 高齢者の生活 ①健康 |
| 5 | | ②暮らし (経済状態・住まい・就業) |
| 6 | 高齢者を支える制度 | 医療保険制度 介護保険制度 成年後見制度 |
| 7 | 高齢者の人権と倫理的問題 | 高齢者に対する差別 高齢者への虐待 |
| 8 | | 高齢者への身体拘束① |
| 9 | | 高齢者への身体拘束② |
| 10 | 老年看護の役割 | 老年看護の目標 高齢者の意思決定を尊重する① |
| 11 | | 高齢者の意思決定を尊重する② |
| 12 | | 生活機能の回復を促す③ |
| 13 | 老年看護の課題 | 高齢者医療の課題について考える① |
| 14 | | 高齢者医療の課題について考える② |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | |
| 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 科目終了試験を実施 ・ 筆記試験によって評価する 授業中の課題を評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 【医学書院】 | | |

| | | |
|--|--------------------------|----------------------------|
| 【科目名】 老年看護援助論 I | 【担当教員】 鈴木 志麻 | |
| 【区分】 専門分野 | | |
| 【開講時期】 2年次 前期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の加齢による変化を理解する ・高齢者によくみられる身体症状について理解する ・高齢者の生活機能を整えるための援助の方法を理解する | | |
| 【授業形態】 講義・演習(シミュレーション等)を行う 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う | | |
| 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 |
| 1 | 高齢者のアセスメント | ヘルスアセスメントと身体の高齢変化 |
| 2 | | ヘルスアセスメントと身体の高齢変化 |
| 3 | 高齢者の生活機能を整える看護 | 日常生活を支える基本行動と看護ケア ①基本動作と環境 |
| 4 | | ②転倒 ③廃用症候群 |
| 5 | | 食事と看護ケア ①食事・食生活 |
| 6 | | ②食事の援助 |
| 7 | | 【演習】口腔ケアの実際 |
| 8 | | 排泄と看護ケア①排尿障害の看護ケア |
| 9 | | ②排便障害の看護ケア |
| 10 | | 清潔と看護ケア |
| 11 | | 生活リズムと看護ケア |
| 12 | | コミュニケーションと看護ケア |
| 13 | 症候のアセスメントと看護 | 身体症状とアセスメント ①掻痒 ②脱水 ③浮腫 |
| 14 | | 身体症状とアセスメント ①掻痒 ②脱水 ③浮腫 |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | |
| 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 【医学書院】 | | |

| | | |
|---|-------------------------|------------|
| 【科目名】 老年看護援助論Ⅱ | 【担当教員】 佐久間 恵 | |
| 【区分】 専門分野 | | |
| 【開講時期】 2年次 前期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 15時間 |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・老人の主な疾病や障害の特徴と治療について理解する ・主な疾病や障害についての看護を理解する | | |
| 【授業形態】 講義 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義を行う | | |
| 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【講義項目・内容】 | |
| 1 | 骨粗鬆症と大腿骨近位部骨折の看護ケア | |
| 2 | 白内障 難聴の特徴と治療 | |
| 3 | 白内障 難聴の看護ケア | |
| 4 | 前立腺肥大症の特徴と治療 | |
| 5 | 前立腺肥大症の看護ケア | |
| 6 | パーキンソン病、パーキンソン症候群の特徴と治療 | |
| 7 | パーキンソン病、パーキンソン症候群の看護ケア | |
| 8 | 科目終了試験 | |
| 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 【医学書院】 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 運動器 腎・泌尿器 脳・神経 【医学書院】 | | |
| 【サブテキスト】 <ul style="list-style-type: none"> ・病気がみえる vol.7、8、11、12 【メディックメディア】 | | |

| | | |
|--|--------------------------|----------------------|
| 【科目名】 老年看護援助論Ⅲ | 【担当教員】 鈴木 志麻 *外部講師 | |
| 【区分】 専門分野 | | |
| 【開講時期】 2年次 後期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・検査・治療を受ける高齢者の看護について理解する ・主な疾病や障害についての看護を理解する ・主な疾病や障害をもつ対象の状況の変化を解釈できる ・生活機能の障害をもった対象に対する看護過程が展開できる 【授業形態】 講義・演習(シミュレーション等)を行う 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う | | |
| 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 |
| 1 | 治療を受ける高齢者への看護 | 検査と看護ケア 手術を受ける患者の看護 |
| 2 | | 薬物療法と看護ケア |
| 3 | 疾病や障害をもつ高齢者への看護 | 褥瘡をもった患者の看護(認定看護師) * |
| 4 | | 誤嚥性肺炎患者の看護 |
| 5 | | 【演習】誤嚥性肺炎患者のケア |
| 6 | | 【演習】誤嚥性肺炎患者のケア |
| 7 | | 認知症患者の看護①(認定看護師) * |
| 8 | | 認知症患者の看護②(認定看護師) * |
| 9 | | 認知症患者に対する看護 |
| 10 | | 【演習】認知症患者のケア |
| 11 | | 【演習】認知症患者のケア |
| 12 | 生活機能に着目した看護過程の展開 | 生活機能の観点からアセスメント |
| 13 | | 看護問題の抽出 |
| 14 | | 看護計画立案 |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | |
| 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 【医学書院】 | | |

| | | | |
|------------|--|------------------------|-------|
| 【科目名】 | 母性看護学概論 | 【担当教員】 | 板垣 涼子 |
| 【区分】 | 専門分野 | | |
| 【開講時期】 | 1年次 後期 | 【単位数】 | 1単位 |
| | | 【時間数】 | 30時間 |
| 【科目目標】 | <ul style="list-style-type: none"> ・母性について考える ・母性看護に関係する法律を理解する ・母子保健の動向を理解する ・母性看護の特徴を理解する ・母性看護における倫理的課題を理解する ・母性各期の健康問題とその看護を理解する | | |
| 【授業形態】 | 講義 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義を行う | | |
| 【事前・事後学習】 | 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 | |
| 1 | 母性看護の基盤となる概念 | 母性とは 母性看護とは | |
| 2 | | 母性看護の対象と特徴 | |
| 3 | | 母子関係と家族発達 | |
| 4 | 母性看護の対象を取り巻く現状 | 母子保健統計からみた動向 | |
| 5 | | 母性看護に関わる法律と施策 | |
| 6 | リプロダクティブヘルスケア | 人工妊娠中絶、不妊治療、出生前診断 | |
| 7 | | 性暴力、児童虐待 | |
| 8 | ライフステージ各期における看護 | 思春期の健康と看護 | |
| 9 | | 成熟期の健康と看護 | |
| 10 | | 更年期・老年期の健康と看護 | |
| 11 | 母性看護に必要な看護技術 | 意思決定を支える/家族適応を促す | |
| 12 | 母性看護における倫理 | 母性看護領域にある倫理的課題 | |
| 13 | | 【演習】倫理的課題について考える① | |
| 14 | | 【グループワーク】倫理的課題について考える② | |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | | |
| 【評価方法】 | <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 ・課題及び筆記試験によって評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 | <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学(1) 母性看護学概論 【医学書院】 | | |
| 【サブテキスト】 | <ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生がみえる【メディックメディア】 | | |

| | | |
|---|-------------|--------------------------|
| 【科目名】 母性看護援助論 I | 【担当教員】 藤巻 尚 | |
| 【区分】 専門分野 | | |
| 【開講時期】 2年次 前期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 15時間 |
| <p>【科目目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期の身体的特性を理解する ・妊娠・分娩・産褥の異常を理解する ・新生児の生理を理解し、異常を述べることができる <p>【授業形態】 講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本科目は医師の実務経験を有する教員が講義を行う <p>【事前・事後学習】</p> <p>事前に配布する資料および教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい</p> | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 |
| 1 | 妊娠期の身体的特徴 | 妊娠の生理、胎児の発育と生理、母体の生理 |
| 2 | 妊娠の異常 | 妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、子宮外妊娠 |
| 3 | 分娩の異常 | 胎位、胎向回旋の異常・胎盤の異常・分娩時異常出血 |
| 4 | 褥婦の経過 | 月経の発来・代謝の変化 |
| 5 | 産褥の異常 | 子宮復古不全・産褥熱 |
| 6 | 新生児の生理 | 呼吸・循環・体温・消化と呼吸・免疫・反射 |
| 7 | 新生児の異常 | 新生児仮死・呼吸窮迫症候群・黄疸 |
| 8 | 科目終了試験 | |
| <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 ・毎回行う確認テストと筆記試験、及び、提出課題、出席、受講態度などを総合的に判断する | | |
| <p>【テキスト・教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学(2) 母性看護学各論 【医学書院】 ・病気がみえる10 産科 【メディックメディア】 | | |

| | | | |
|------------|---|----------------------|-------|
| 【科目名】 | 母性看護援助論Ⅱ | 【担当教員】 | 板垣 涼子 |
| 【区分】 | 専門分野 | | |
| 【開講時期】 | 2年次 前期 | 【単位数】 | 1単位 |
| | | 【時間数】 | 30時間 |
| 【科目目標】 | <ul style="list-style-type: none"> ・妊産婦の身体的、精神的、社会的特徴を理解する ・妊娠期、分娩期（分娩第1期～分娩第4期）の看護について理解する ・妊婦への保健相談について理解する ・妊娠期、分娩期における臨床判断の基礎的能力を養う | | |
| 【授業形態】 | 講義・演習(シミュレーション等を活用する) 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義を行う | | |
| 【事前・事後学習】 | 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 | |
| 1 | 妊娠期における看護 | 妊婦の身体的・精神的・社会的特徴 | |
| 2 | | マイナートラブルへの援助 | |
| 3 | | 妊婦健康診査時の援助 | |
| 4 | | 妊娠期の健康問題と看護① | |
| 5 | | 妊娠期の健康問題と看護② | |
| 6 | | 妊娠期における母子保健サービス、保健相談 | |
| 7 | 妊娠経過のアセスメント | 【演習】妊娠期の事例検討① | |
| 8 | | 【演習】妊娠期の事例検討② | |
| 9 | 分娩期における看護 | 分娩の3要素と分娩経過 | |
| 10 | | 分娩各期の看護① | |
| 11 | | 分娩各期の看護② | |
| 12 | | 分娩各期の看護③ | |
| 13 | | 腹式帝王切開術時の看護 | |
| 14 | 分娩期の看護の実際 | 【演習】分娩期の事例検討① | |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | | |
| 【評価方法】 | <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 ・課題、筆記試験によって評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 | <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学(2) 母性看護学各論 ・病気がみえる10 産科 【メディックメディア】 | | |

| | | |
|---|--------------------------|-----------------------------|
| 【科目名】 母性看護援助論Ⅲ | 【担当教員】 板垣 涼子 | |
| 【区分】 専門分野 | | |
| 【開講時期】 2年次 後期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| 【科目目標】 ・産褥期の身体的、精神的、社会的特徴を理解する ・産褥経過と看護について理解する ・新生児の生理と看護について理解する ・ウェルネスの視点から母性看護過程を展開する ・施設退院後の看護について理解する 【授業形態】 講義・演習(シミュレーション等を活用する) 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 |
| 1 | 産褥期における看護 | 褥婦の身体的・精神的・社会的特徴 |
| 2 | | 産褥期の身体的変化① |
| 3 | | 産褥期の身体的変化② |
| 4 | | 産褥期の心理・社会的変化 |
| 5 | | 産褥期の健康問題と看護 |
| 6 | 産褥期のアセスメント | 【演習】産褥期の事例検討 |
| 7 | 新生児の看護 | 新生児の身体的特徴 |
| 8 | | 新生児期における生理的变化 |
| 9 | | 新生児期の健康問題と看護 |
| 10 | | 出生直後から退院時までの看護 |
| 11 | | 新生児の健康状態のアセスメント |
| 12 | 施設退院後の看護 | 産後の生活調整、子育て支援、健康相談 |
| 13 | 新生児に対する看護技術 | 【演習】全身の観察・沐浴・育児技術・バイタルサイン測定 |
| 14 | | |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | |
| 【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・課題、筆記試験によって評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学(2) 母性看護学各論 【医学書院】 ・病気がみえる10 産科 【メディックメディア】 | | |

| | | |
|--|--------------------------|--------------------------------------|
| 【科目名】 小児看護学概論 | 【担当教員】 筒淵 志保 | |
| 【区分】 専門分野 | | |
| 【開講時期】 1年次 後期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・小児とは何か理解する ・小児の日常生活を理解する ・小児を取り巻く環境と問題を理解する ・先天異常のある子どもと家族を理解する 【授業形態】 講義・演習（シミュレーション等を活用する） 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う | | |
| 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 |
| 1 | 小児看護の概要 | 小児看護とは/小児の定義 時代の流れと子どもを守る法律 |
| 2 | 小児と家族 現代の小児を取り巻く問題 | 家族システム理論/家族の発達課題と現代の家族の特徴 児童虐待 |
| 3 | 小児の成長・発達 心・社会 | エリクソンの発達課題・発達理論からみた小児 ピアジェの認知発達理論 |
| 4 | 小児の成長・発達 身体 | 成長・発達とは/成長・発達の評価/運動機能の発達 |
| 5 | 小児の発達の特徴・健康問題 | 乳児の発達の特徴/原始反射・健康問題 |
| 6 | | 幼児の発達の特徴・健康問題 |
| 7 | | 学童、思春期の発達の特徴・健康問題 |
| 8 | 子どもの日常生活 | 子どもの栄養 |
| 9 | | 子どもの清潔・排泄・休息 |
| 10 | | 予防接種 |
| 11 | 特別な支援を必要とする小児 と家族の看護 | 先天性障害・発達障害のある子どもと家族の看護 |
| 12 | | 【シミュレーション演習】 予防接種 |
| 13 | | 【演習】 手作り玩具作成・発表準備 |
| 14 | | 【演習】 手作り玩具発表 |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | |
| 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する（90点） ・予防接種スケジュールの組み立て、説明内容を評価対象とする（5点） ・手作り玩具・発表内容を評価対象とする（5点） | | |
| 【テキスト・教科書】 ・小児の発達と看護 【メディカ出版】 | | |

| | | |
|---|--------------------------|----------------------------|
| 【科目名】 小児看護援助論 I | 【担当教員】 難波 弘美 | |
| 【区分】 専門分野 | | |
| 【開講時期】 2年次 前期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・小児や家族と、援助関係を形成するために必要な技術を理解する ・小児看護に必要な看護技術を理解する 【授業形態】 講義・演習（シミュレーション等を活用） 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う | | |
| 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 |
| 1 | 子どもとのコミュニケーション | 子どもとのコミュニケーション |
| 2 | プレパレーション | プレパレーション、ディストラクション |
| 3 | 子どものバイタルサイン測定 | 子どものバイタルサイン測定の技術、正常値 |
| 4 | 子どもとのコミュニケーション | (演習) グループワーク発表 |
| 5 | 子どものバイタルサイン測定 | (演習) 子どものバイタルサイン測定の実際 |
| 6 | プレパレーション | グループワーク |
| 7 | 子どもの検査時の看護技術 | 抑制／採血／採尿 |
| 8 | | (演習) 抑制／採血／採尿／抱っこ／清拭／おむつ交換 |
| 9 | プレパレーション | グループワーク |
| 10 | 子どもの薬物療法と看護 | 子どもの薬物管理／経口与薬 |
| 11 | プレパレーション | (演習) グループワーク発表 |
| 12 | | (演習) グループワーク発表 |
| 13 | 子どもの薬物療法と看護 | 点滴静脈内注射の管理 |
| 14 | 子どもの入院環境と調節の技術 | 入院環境調節の技術 |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | |
| 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 ・筆記試験と課題によって評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・ナーシング・グラフィカ 小児看護学①小児の発達と看護 【メディカ出版】 ・ナーシング・グラフィカ 小児看護学②小児看護技術 【メディカ出版】 | | |

| 【科目名】 小児看護援助論Ⅱ | 【担当教員】 村井 絹子 | |
|---|--------------|------------------|
| 【区分】 専門分野 | | |
| 【開講時期】 2年次 前期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 15時間 |
| <p>【科目目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児に出現しやすい健康障害を理解する <p>【授業形態】 講義</p> <p>本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義を行う</p> <p>【事前・事後学習】</p> <p>事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい</p> | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 |
| 1 | 小児の疾病の経過と特徴 | 染色体異常 |
| 2 | | 肺炎・気管支炎・気管支喘息 |
| 3 | | 口唇裂・口蓋裂・腸重積症・胃腸炎 |
| 4 | | 川崎病・ファロー四徴症 |
| 5 | | ネフローゼ症候群・尿路感染症 |
| 6 | | アレルギー性紫斑病・股関節脱臼 |
| 7 | | 筋ジストロフィー・脳性麻痺 |
| 8 | 科目終了試験 | |
| <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する | | |
| <p>【テキスト・教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学(2) 小児臨床看護各論 【医学書院】 | | |

| | | |
|--|---------------------------------|---------------------------------------|
| 【科目名】 小児看護援助論Ⅲ | 【担当教員】 村井 絹子 | |
| 【区分】 専門分野 | | |
| 【開講時期】 3年次 前期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 疾病による子どもの身体的・心理的・社会的変化を理解する ・ 子どもが疾病を持つことによる、家族への影響を理解する ・ 病期に応じた小児の看護を理解する ・ 小児の疾患・症状に応じた看護の方法を理解する 【授業形態】 講義 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義を行う | | |
| 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 |
| 1 | 疾病を持つ子どもと家族 | 子どもと家族の疾病のとらえ方 |
| 2 | 疾病を持つ子どもと家族のストレスと看護 | 子どものストレス反応、家族のストレス |
| 3 | 子どもと家族の経過別看護 | 病期に応じた小児の看護/外来看護の役割 |
| 4 | 感染症の子どもの看護 | 麻疹・水痘の子どもの看護 |
| 5 | 代謝性疾患・内分泌疾患の子どもの看護 | 糖尿病の小児の看護/周期性嘔吐の子どもの看護 |
| 6 | 呼吸器疾患の子どもの看護 | 気管支炎・肺炎の子どもの看護 |
| 7 | 免疫・アレルギー性疾患の子どもの看護 | 気管支喘息の子どもの看護 |
| 8 | 循環器疾患の子どもの看護 | ファロー四徴症の子どもの看護 川崎病の子どもの看護 |
| 9 | 消化器疾患の子どもの看護 | 口唇裂・腸重積症・急性胃腸炎の子どもの看護 |
| 10 | 腎・泌尿器疾患の子どもの看護 | ネフローゼ症候群の子どもの看護 尿路感染症の子どもの看護 |
| 11 | 運動器疾患の子どもの看護 神経疾患の子どもの看護 | 先天性股関節脱臼の子どもの看護 脳性まひ・熱性けいれんの子どもの看護 |
| 12 | 悪性新生物の子どもの看護 血液・造血器疾患の子どもの看護 | 悪性疾患を持つ子どもの看護 アレルギー性紫斑病の子どもの看護 |
| 13 | 事例展開 | 気管支喘息の子どもの看護①（急性期・慢性期） |
| 14 | シミュレーション演習 | 気管支喘息の子どもの看護②（急性期・慢性期） |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | |
| 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 科目終了試験を実施 ・ 筆記試験によって評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学(2) 小児臨床看護各論【医学書院】 | | |

| | | |
|--|--------------------------|-------------------------|
| 【科目名】 精神看護学概論 I | 【担当教員】 藤井 純 | |
| 【区分】 専門分野 | | |
| 【開講時期】 1年次 後期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| <p>【科目目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心の理解の仕方、心の健康について理解する ・社会的背景と心の健康の関連について理解する ・精神看護の基本姿勢を理解する <p>【授業形態】 講義 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義を行う</p> <p>【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい</p> | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 |
| 1 | 精神看護学の位置づけ | 心の健康とは、精神看護の対象 |
| 2 | 心の構造と機能 | 心の構造・機能、自我の防衛機制 |
| 3 | 自己の成長 | フロイト・エリクソンの理論 |
| 4 | ストレスとコーピング | ストレスとは、ストレス対処行動 |
| 5 | 危機理論 | 危機の概念、危機介入の目的と方法 |
| 6 | 環境と心 | 生活の場の特性と心の健康（家庭の場・学校の場） |
| 7 | | 生活の場の特性と心の健康（職場・地域の場） |
| 8 | | 現代社会における精神保健の主な問題 |
| 9 | コミュニケーション | アサーション① |
| 10 | | アサーション② |
| 11 | | コミュニケーションスキル |
| 12 | | 患者－看護師関係の発展段階 |
| 13 | プロセスレコード | プロセスレコードの目的・方法 |
| 14 | | プロセスレコードを書いてみよう |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | |
| <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する | | |
| <p>【テキスト・教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新体系看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健 【メヂカルフレンド社】 | | |

| | | |
|--|--------------------|-----------------------|
| 【科目名】 精神看護学概論Ⅱ | 【担当教員】 石山 正己 *外部講師 | |
| 【区分】 専門分野 | | |
| 【開講時期】 2年次 前期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 15時間 |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・精神医療の歴史的 position、精神障害者の置かれている現状を理解する ・精神保健福祉活動の概要とその法的背景・理念について理解する ・患者の権利擁護と入院患者の処遇についての遵守事項を知る | | |
| 【授業形態】 講義 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義を行う | | |
| 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 |
| 1 | 精神障害者の置かれている現状 | 精神科病院の特徴① |
| 2 | | 精神科病院と特徴②・精神医療の変遷 |
| 3 | 精神保健福祉法 | 精神の健康に関する法律 |
| 4 | 精神保健福祉活動 | 地域で精神障害者を支える（認定看護師） * |
| 5 | 精神科での治療 | 精神科における主な治療について① |
| 6 | | 精神科における主な治療について② |
| 7 | リエゾン精神看護 | リエゾン精神看護の目的・役割 |
| 8 | 科目終了試験 | |
| 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・新体系看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健 【メヂカルフレンド社】 ・新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 【メヂカルフレンド社】 | | |

| | | |
|---|--------------------------|--------------------|
| 【科目名】 精神看護援助論 I | | 【担当教員】 的場 已知子 藤井 純 |
| 【区分】 専門分野 | | |
| 【開講時期】 2年次 後期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・精神疾患の分野と基本的概念を理解する ・精神疾患の検査・治療の方法について理解する ・主な精神疾患について理解する 【授業形態】 講義 | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 |
| 1 | 精神疾患の捉え方 | 異常と病気、精神疾患の原因・分類 |
| 2 | | 精神の機能と障害 |
| 3 | | 状態像 |
| 4 | 精神科の治療・検査 | 検査（脳波、心理検査） |
| 5 | | 薬物療法、電気痙攣療法、精神療法 |
| 6 | | 様々な行動療法① |
| 7 | | 様々な行動療法② |
| 8 | 主な精神疾患 | 統合失調症 |
| 9 | | 躁うつ病 |
| 10 | | 神経症・心因反応 |
| 11 | | 人格障害 |
| 12 | | アルコール依存症 |
| 13 | | てんかん |
| 14 | | 器質性精神疾患 |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | |
| 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・新体系看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健 【メヂカルフレンド社】 ・新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 【メヂカルフレンド社】 | | |

| | | | | | | |
|--|--------------------------|-----------------------------------|--------|------|-------|------|
| 【科目名】 | 精神看護援助論Ⅱ | | 【担当教員】 | 藤井 純 | | |
| 【区分】 | 専門分野 | | | | | |
| 【開講時期】 | 2年次 | 後期 | 【単位数】 | 1単位 | 【時間数】 | 30時間 |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・精神の状態・問題行動に応じた看護の方法を理解する ・精神科治療過程における日常生活の援助について理解する ・主な精神障害患者の看護について理解する ・実習中に起こりうる状況に対する対応方法の気づきを得る 【授業形態】 講義・演習（シミュレーション等を活用） 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う | | | | | | |
| 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | | | | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 | | | | |
| 1 | 主な精神疾患の看護 | 統合失調症の看護 | | | | |
| 2 | VR動画を用いた患者体験と看護 | ①：統合失調症を再発した事例 | | | | |
| 3 | | ②：妄想のある統合失調症患者の事例 | | | | |
| 4 | | ③：幻聴に悩んでいる統合失調症患者の事例 | | | | |
| 5 | 主な精神疾患の看護 | うつ病とその看護 | | | | |
| 6 | 主な精神疾患の看護 | 双極性障害とその看護 | | | | |
| 7 | | 強迫性障害・パニック障害とその看護 | | | | |
| 8 | | パーソナリティ障害とその看護 | | | | |
| 9 | | ストレス関連障害（急性ストレス障害・PTSD・適応障害）とその看護 | | | | |
| 10 | | アルコール依存症、薬物依存症とその看護 | | | | |
| 11 | | てんかん・小児期の精神障害とその看護 | | | | |
| 12 | | 認知症とその看護 | | | | |
| 13 | | 摂食障害とその看護 | | | | |
| 14 | 精神看護学実習にむけて | プロセスレコードを用いて | | | | |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | | | | | |
| 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する | | | | | | |
| 【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・新体系看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健 【メヂカルフレンド社】 ・新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 【メヂカルフレンド社】 | | | | | | |

| | | |
|---|--------------------------|-----------------------|
| 【科目名】 臨床適応 I | 【担当教員】 難波 弘美 | |
| 【区分】 専門分野 | | |
| 【開講時期】 3年次 後期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・複数患者を受け持つための情報収集・管理ができる ・1日のスケジュールの立て方と業務時間の管理ができる ・多重課題の危険性を理解する ・多重課題発生時の対処の原則を理解する | | |
| 【授業形態】 講義・演習（シミュレーション等を活用する） 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う | | |
| 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 |
| 1 | 複数患者受け持ちと多重課題 | 複数患者受け持ちとは何か、多重課題とは何か |
| 2 | 情報収集と管理 | 情報収集と管理 |
| 3 | | 優先順位を決定するための情報整理の工夫 |
| 4 | 多重課題の危険性 | タイムプレッシャー・業務途中の中断 |
| 5 | | 新人特有の危険な思い込みと行動パターン |
| 6 | 多重課題への対処 | 業務の可視化 |
| 7 | | 報告・連絡・相談 |
| 8 | | 夜勤における多重課題の対処 |
| 9 | 1日の業務の組み立て | タイムスケジュール作成の実際 |
| 10 | | タイムスケジュール運用上の留意点 |
| 11 | 複数患者受け持ち演習 | 【演習】複数患者受け持ち演習① |
| 12 | | 【演習】複数患者受け持ち演習② |
| 13 | | 【演習】複数患者受け持ち演習③ |
| 14 | | 【演習】複数患者受け持ち演習④ |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | |
| 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 ・課題・筆記試験によって評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践① 看護管理【医学書院】 ・系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践② 医療安全【医学書院】 | | |

| | | |
|---|--------------------------|---|
| 【科目名】 臨床適応Ⅱ | 【担当教員】 ◎安藤 とよ子 難波 弘美 | |
| 【区分】 専門分野 | | |
| 【開講時期】 2年次 通年 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 30時間 |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・「危険」と判断できるための知識と技術が必要性を理解する ・重大事故をおこさないために必ず知っておくべき危険状況とその理由について理解する ・ME機器の基本的知識をもとに、操作する上での危険性を理解する | | |
| 【授業形態】 講義・演習（シミュレーション等を活用する） 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う | | |
| 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 |
| 1 | 医療安全の基本的考え方 | 医療事故と看護業務 医療安全に関する用語の定義 ◎ |
| 2 | | ヒューマンエラーと人間の特性 看護事故の構造と事故防止 ◎ |
| 3 | | 国の医療安全対策、組織としての医療安全対策、個人としての医療安全対策 ◎ |
| 4 | 起こりやすい医療事故と対策 | 統計資料の分析 医療事故やヒヤリ・ハットの分析方法 |
| 5 | | 【演習】医療事故分析 |
| 6 | | 診療の補助に関連した医療事故と対策 |
| 7 | | 療養上の世話に関連した医療事故と対策 |
| 8 | | 業務領域をこえて共通する医療事故と対策 |
| 9 | | ME機器の操作と危険 (外部講師) |
| 10 | | 事故発生時の対応 |
| 11 | 医療安全とコミュニケーション | 医療事故防止のための医療職間のコミュニケーション 医療事故防止のための患者とのコミュニケーション |
| 12 | 医療事故防止のための活動 | 【演習】KYT |
| 13 | | 【演習】5S |
| 14 | 看護師の労働安全衛生上の事故防止 | 職業感染、抗がん剤の暴露、放射線被曝、ラテックスアレルギー、院内暴力 |
| 15 | 科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り | |
| 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 ・課題・小テスト・筆記試験によって評価する | | |
| 【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践② 医療安全【医学書院】 | | |

| 【科目名】 臨床適応Ⅲ | 【担当教員】 ◎柴田 百合子 ○安藤 とよ子 | |
|---|------------------------|---|
| 【区分】 専門分野 | | |
| 【開講時期】 3年次 後期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 15時間 |
| 【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・看護活動を円滑に行うためのマネジメントについての概略がわかる ・看護のマネジメントが必要とされる場（組織や医療チーム・多職種連携等）について理解する ・看護のマネジメントに必要な知識と技術について理解する | | |
| 【授業形態】 講義 <ul style="list-style-type: none"> ・本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義を行う | | |
| 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 |
| 1 | 看護とマネジメント | 看護管理の目的 看護におけるマネジメント ○ |
| 2 | 看護ケアのマネジメント | 看護職の機能 安全管理 チーム医療と多職種連携 ○ 看護業務実践等 |
| 3 | 看護職のキャリアマネジメント | 看護職のキャリア形成 タイムマネジメント ストレスマネジメント等 ◎ |
| 4 | 看護サービスのマネジメント | 組織として看護サービスをマネジメント ◎ |
| 5 | | サービス提供のマネジメント（人・もの・情報等） 組織におけるリスクマネジメント 看護サービスの評価等 |
| 6 | 看護マネジメントに必要な知識と技術 | 組織とマネジメント リーダーシップ・メンバーシップとマネジメント 組織の調整 ◎ |
| 7 | 看護を取り巻く諸制度 | 看護職と諸制度 看護政策等 ○ |
| 8 | 科目終了試験 | ○ |
| 【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 ・授業への参加、課題提出も評価の対象とする | | |
| 【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践① 看護管理【医学書院】 | | |

| | | |
|---|--------------------|------------------------------|
| 【科目名】 災害看護論 | 【担当教員】 非常勤講師 ○林 達彦 | |
| 【区分】 専門分野 | | |
| 【開講時期】 3年次 通年 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 15時間 |
| <p>【科目目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害の定義と種類、災害によって引き起こされる健康上の問題を理解する ・災害サイクルと各サイクル時の対応・支援体制の概要を理解する ・各災害サイクルにおける看護活動と看護者の理解する <p>【授業形態】 講義 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義を行う</p> <p>【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい</p> | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 |
| 1 | 災害に関する基礎知識 | 災害の歴史、災害・災害看護の定義、災害の種類とサイクル等 |
| 2 | 災害時の対応としくみ | 災害に関する制度、各機関の支援体制等 |
| 3 | 災害時の看護活動 | 被災者・援助者のストレスとこころのケア |
| 4 | | 災害サイクル各期における看護と技術等 |
| 5 | 災害への備えと教育 | 病院における災害への備え、災害教育・理論等 |
| 6 | 対象別にみた災害看護と感染対策 | 各対象に応じた看護、災害時における感染看護等 |
| 7 | 災害医療の実際 | ○ |
| 8 | 科目終了試験 | |
| <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 ・授業への参加、課題提出も評価の対象とする | | |
| <p>【テキスト・教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害看護 【南江堂】 | | |

| | | |
|---|--------------|---------------------------|
| 【科目名】 国際看護論 | 【担当教員】 山中 麻衣 | |
| 【区分】 専門分野 | | |
| 【開講時期】 3年次 後期 | 【単位数】 1単位 | 【時間数】 15時間 |
| <p>【科目目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際看護の必要性と看護の役割を理解する ・国際的視野を持つため、日本と異なる文化を理解する ・国際看護活動を理解する <p>【授業形態】 講義 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義を行う</p> <p>【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい</p> | | |
| 【回数】 | 【項目】 | 【内容】 |
| 1 | 国際看護の概念 | 1) 国際看護とは何か |
| 2 | | 2) 国際看護は、なぜ必要か |
| 3 | 国際看護の対象者 | 3) 他国の文化と看護の考え方 |
| 4 | | 4) 世界の健康問題（疾病構造、貧困、栄養など） |
| 5 | | 5) 世界の保健医療の現状 |
| 6 | 国際看護の実際 | 6) 在日外国人の保健、医療、福祉（具体的対応） |
| 7 | | 7) 国際支援の種類（難民支援、災害時の緊急支援） |
| 8 | 科目終了試験 | |
| <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する | | |
| <p>【テキスト・教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料配布 | | |